



凡 例

一此帳簿ハ醬油溜ノ口分ケヲナレ記入スヘシ其小計通計記載方ハ醬油買入帳ニ同シ  
 一醬油及溜仕込製造法同一ナルモノハ一々石數ヲ記載スルニ及ハス仕込順號桶號年月日  
 同上ト記シ置クヘシ

醬油仕込ノ部

第何號桶  
 第一號  
 何月何日  
 一大豆 何程  
 一何麥 何程  
 一何々 何程  
 一鹽 何程

一水 何程

第何號桶

第何號

何月何日

一大豆 何程

一何麥 何程

一鹽 何程

一水 何程

小計

通計

(種類ノ内課  
ヲ爲スヘシ)

第十四號





豎曲尺三尺

○縣令第四十七號 二十一年九月廿一日

明治十七年(九月)甲第八十四號布達酒造營業人心得方規則第三號ヨリ第六號ニ至ル屆書式ノ宛名ヲ三重縣第何區租稅檢査員派出所ト更正ス

○縣令第四十八號 二十一年九月廿一日

明治二十年(八月)本縣々令第七十一號河川流水取締規則中左ノ一條ヲ追加ス

第四條 河川通船ノ場所ニ於テ繩ヲ張リ(方言)河身ヲ橫斷シ木材ヲ流下スヘカラス

○縣令第四十九號 二十一年十月二日

明治十九年(十一月)本縣々令第十八號土木條例第三章第二十五條左之通改正ス

第二十五條 町村土木補助費ニ係ル不用ノ古材鐵物等公賣ニ付スルトキハ戶長役場ニ於テ取計ヒ其金額ハ郡役所ヘ届出其町村費ヘ收入スヘシ

(參看)明治十九年縣令第十八號

第二十五條 町村土木補助費ヲ以テ補助シタル不用ノ古材鐵物等公賣ニ付スル所屬

戶長役場ニ於テ取計ヒ其時々郡役所ヘ届出其代金ハ戶長役場ニ預リ置キ追テ該所ノ修繕費ニ充ツヘシ

但補助費ヲ請求スル所ハ町村費限度外ニ遣ヒ拂フモノトス

○縣令第五十號 二十一年十月二日

北牟婁郡撰舉縣會議員濱中藤兵衛今般辭職ニ付右補缺ノ爲メ本月中該郡ニ於テ撰舉會ヲ開設ス

但撰舉會場及投票期日時限等ハ該郡長ヨリ郡内ヘ公告スヘシ

○縣令第五十一號 二十一年十月十二日

北牟婁郡撰舉縣會議員長井覺兵衛今般辭職ニ付右補欠ノ爲メ本月中該郡ニ於テ撰舉會ヲ開設ス

但撰舉會場及投票期日時限等ハ該郡長ヨリ郡内ヘ公告スヘシ



(數人連署セシ片ハ表面姓名ノ下ニ各自調印シ一名若クハ二名ノ總代人署名ヲ以テ  
届出ルモ妨ケナシ第二號書式倣之)

右明治何年煙草作付反別前書ノ通候此段御届申上候也

右(總代)

年 月 日

何 / 誰 印

三重縣知事氏名宛

(第二號書式) (用紙對半紙)

煙草收穫葉量御届

何 郡 何 村

作付反別	乾上葉量	作人住所	作人姓名
何反何畝歩	何貫何百匁	何 村	何 / 誰
、 、 、	、 、 、	同	何 / 誰

右明治何年煙草收穫乾上葉量前書ノ通候此段御届申上候也

右(總代)

年 月 日

何 / 誰 印

三重縣知事氏名宛

○縣令第五十四號 二十一年十二月十八日

農事ノ改良ヲ謀ラソカ爲メ田圃ノ畦畔ヲ撤去シ或ハ土地ヲ交換シ及地目ノ變換又ハ道溝  
變更等ノ爲メニ有租地トナルノ類ハ其實況ヲ調査シ五ヶ年以内相當年期ヲ定メ現地價又  
ハ現況据置ノ義特ニ許可スヘキニ付其實施ニ係ルモノハ繪圖面及方法書ヲ添付シ其時々  
願出ヘシ

○縣令第五十五號 二十一年十二月十八日

本年農商務省訓令第五號ノ趣モ有之候ニ付本年縣令第十號山野火入規則左之通リ改正ス  
山野火入規則

第一條 山林取締規則第六條但し書ニ據ルモノハ勿論原野ト雖も火入レヲ爲サント欲スル者アルハ左ノ各項ヲ具シタル願書ヲ郡長ニ差出認可ヲ受クヘシ  
(二十二年縣令六十三號文中挿入)

一 火入期日

一 箇所限リ地目反別及字番號持主

一 四至境界ヲ見ルヘキ實地略圖

第二條 認可ヲ受ケタル后チ山野ニ火入スルハ五日以前ニ所轄警察署又ハ分署戶長役場并ニ接續地ノ監守人及所有者(官林ナレハ大小林區署若シテハ大林區署派出所若シテハ官林巡邏)ヘ申報スベシ火入期日ヲ延期スルハ亦全シ

第三條 火入期日天氣靜穩ノ日ニ非ラサレハ順延施行スヘシ

第四條 火入レヲ爲スルハ其接續山野ノ境界ニ防火線ヲ設ケベシ

第五條 防火線ハ幅三間以上トス都テ柴草ヲ刈採リ落葉并ニ塵芥ヲ除キ去リ或ヒハ土堤又ハ堀溝等ノ設ケヲナスヘシ

但シ道路窪谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延焼ノ虞ナキ地ハ此限リニアラズ

第六條 火入レヲ爲シタルハ火氣全ク消滅スル迄ハ其場處ヲ退去スヘカラズ

第七條 火入認可ヲ受ケタル者ト雖も郡長警察官戶長及大小林區署員大林區署派出所員等ニ於テ防火ノ準備不充分ト見認メタルハ又ハ風勢ノ變動等ニヨリ他ヘ延焼ノ虞アリト思量スルハ直ニ之レヲ中止セシムルコトアルベシ

第八條 第四條第五條ニ違背シテ完全ナル防火線ヲ設ケザルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 第二條ニ違背シテ申報ヲ爲サス第六條ニ違背シテ火氣消滅前ニ退去シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○縣令第五十六號 二十一年十二月十八日

明治廿一年度地方稅收支追加豫算及ヒ寄附物件等臨時縣會決議ヲ以テ左ノ通相定ム

明治廿一年度地方稅收入追加豫算



一金三千貳百七拾八圓四拾壹錢九厘

地租割

但本年地租豫算高百三拾九万三百三拾八圓六拾八錢九厘地租壹圓ニ付金貳厘三毛五八

一金千三百七拾九圓八拾貳錢四厘

戶數割

但明治廿年七月一日開總戶數十七万貳千四百四拾八戶戶數一戶ニ付金八厘

一金八百貳拾八圓五錢五厘

寄附金

合計金五千四百八拾六圓貳拾九錢八厘

明治廿一年度地方稅支出追加豫算

一金千七百五拾四圓八拾五錢八厘

土木費

內

金千七百五拾四圓八拾五錢八厘

治水堤防費

一金貳千九百三圓三拾八錢五厘

町村土木補助費

一金八百貳拾八圓五錢五厘

警察廳舍建築修繕費

內

金八百貳拾八圓五錢五厘

建築費

但寄附金

合計金五千四百八拾六圓貳拾九錢八厘

右ノ二項ハ寄附者指定ノ途ニ使用ス

楚原警察署新築用トシテ寄附物件

一地所 一反二畝十七步

一八夫 七百二十二八

松坂警察署内七日市分署用トテ寄附物件

一 地所 百二十坪

一 建家 二 棟

但坪數四十六坪五合

○縣令第五十七號 二十一年十二月二十一日

明治廿年(七月五日)三重縣令第六十六號娼妓貸座敷規則第五章罰則中左ノ通改正削除ス

一 第五十四條中違背ナル者ハ(ノ下三拾圓以下ノ廿四字ヲ)一日以上十日以下ノ拘留ニ

處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス(ノ三十四字ニ改ム)

一 第五十五條第五十六條ヲ削リ第五十七條ヲ第五十五條トス

○縣令第五十八號 二十一年十二月廿五日

明治二十一年度地方稅臨時追収ノ分納期限ヲ明治二十二年三月廿五日限リト定ム

○自明治二十一年一月三十一日  
至同 年十二月三十一日 三重縣訓令之部

○訓令第一號 二十一年一月十日

郡役所

私立銀行并ニ銀行類似會社ニ於テ是迄諸證書ニ役印ヲ押用スル向モ有之候趣ヲ以テ二十  
年大藏省第六十八號訓令ノ次第ニ有之候ニ付右ノ明治十年七月第五十號同九月第六十號  
布告ノ通り實印押用致サスヘキ様注意スヘシ

○訓令第二號 二十二年一月十三日

郡役所 戶長役場

明治十九年(十月)本縣訓令第六十九號徵發物件表調製手續ノ内左ノ通増補ス

一 第二番向驛トアル箇所ノ内

桑名郡長島員辨郡阿下喜三重郡菟野鈴鹿郡庄野同郡坂ノ下奄藝郡一身田ノ六ヶ所ヲ  
増補ス

一同何市街トアル箇所ノ内

度會郡宇治市街ヲ増補ス

明治二十二年一月 訓令

一何市街トアル箇所ノ次ヘ左ノ一項ヲ増補ス

一同何町トアルヘ左ノ箇所ヲ記入スヘシ

桑名郡獵師町安濃郡伊豫町同郡若田町同郡立合町同郡佐伯町同郡弓ノ町同郡船頭町同郡上辨財町同郡下辨財町同郡阿漕町同郡的場同郡久留島同郡元築造同郡宮ノ前同郡西裏同郡弓屋敷同郡野崎垣内同郡山中同郡出口同郡綿内同郡八幡町同郡藤枝町同郡榮町同郡餘慶町同郡八山度會郡田丸町

○訓令第三號 二十一年一月十三日

伊勢志摩全國南北牟婁郡

郡役所 戸長役場

明治二十年五月三重縣訓令第六百二十六號ヲ廢止ス

○訓令第四號 二十一年一月十七日

郡役所

官有地拂下出願ノ節ハ實地ニ就キ支障ノ有無ヲ札シ尙反別既定ノモノハ並ニ地代金ノ當否ヲ調査シ意見書ヲ添差出スヘシ

但明治十二年(三月)乙第四十六號達ハ取消ス

○訓令第五號 二十一年一月二十日

沿海町村浦役場

本月八日尾州武豊港ニ於テ扶桑艦水雷發射演習ノ際魚形水雷一個流失ノ件

○訓令第六號 二十一年一月廿四日

郡役所 戸長役場

明治十九年十月本縣訓令第六十九號ニ據リ差出スヘキ附錄第五號ノ三漁船表調製手續左ノ通心得ヘシ

但持主變更船名改稱等ノ異動アルハ其時々届出シムヘシ

一漁船表中免狀番號欄内ニハ必ス選信省ノ登簿ニ係ル船名ノ記入シ不登簿ノ渾テ斜線ヲ施スヘシ

一蒸溜水トハ全ク飲料用ノ爲メ特ニ設置セル蒸溜機械ヨリ成ルモノニシテ尋常汽鐘覆水ヲ云フニアラス故ニ該機械ノ備ナキモノハ又斜線ヲ施スヘシ

一荷積機械トハ「スタームウインチ」又ハ「ウインドラス」等ノ類ニシテ重量ノ物件ヲ積卸

スル爲メニ設置シタル機械ヲ云フ故ニ其備アルモノハ其數何個其力何噸ト記入シ又其備ナキモノハ單ニ斜線ヲ施スヘシ

一費油ハ必升數費脂ハ必斤數ヲ以テ記入スヘシ

一積荷量ハ乗組人ノ常用室及客室等ヲ除キ全ク貨物ヲ積入ルヘキ松輪ノ惣積量ヲ記入スヘシ

○訓令第七號 二十一年一月廿四日

伊勢國志摩全國南北半其郡

郡 役 所

警察署同分署

戶長役場

明治二十年(四月)三重縣訓令第四百九十九號陸軍召集條例細務規定中左ノ通リ改正ス

第四條第一項ノ(又ハ)(若クハ)ノ五字ヲ削除ス

第六條ノ達文中各冒頭ニ(月日)ノ二字ヲ加フ

第十四條第三項中以内ノ下ニ(寄留地ヨリ近衛兵集合地ニ)ノ分註ヲ加フ

同條第六項及第十五條中樞員ノ下ニ(下)ノ分註ヲ加フ

第三十條中(第一)ノ二字ヲ削ル又(人名)ノ二字ヲ(分界)ノ二字ニ改ム

○訓令第八號 二十一年一月廿四日

郡役所 戶長役場

客年十二月陸軍省訓令甲第十五號ニ據リ取調フヘキ徵發令第十二條第二項ノ馬匹員數増減ノ儀ハ毎年二月一日現在數ヲ戶長ニ於テ取調ヘ十九年十二月陸軍省訓令甲第二號馬匹員數表ヲ製シ同月十日限リ郡役所ヘ差出シ郡役所ニ於テハ之ヲ一郡表ニ調製シ同月二十日限リ縣廳ニ差出スヘシ

但伊勢志摩全國南北半其郡ハ本年ニ限リ取調フルニ及ハス

○訓令第九號 二十一年一月廿七日

戶長役場

明治十七年甲第百十四號布達巡查志願者心得書第三條同廿年縣令第六十六號娼妓貸座敷規則第二條中戶籍寫ト有之候處其正寫タルト否トハ戶長役場ニ於テ証明シタルモノ無之

テハ不相分儀ニ付其証明ヲ請フ者アラハ之ヲ附與スヘシ

○訓令第十號 二十一年一月卅一日

郡役所 戸長役場

昨二十年一月ヨリ十二月ニ至ル水産物統計調査ノ儀農商務大臣ヨリ達ノ次第有之候ニ付左ノ調査心得書及様式ニ依リ戸長役場ハ二月十五日迄ニ郡役所ニ差出シ郡役所ハ各町村分ヲ郡表ニ調製シテ各町村表ト共ニ三月三十一日迄ニ縣廳ニ進達スヘシ但縣廳ハ正副二通ツ、進達スヘシ

水産物統計表調査心得書

一此統計ハ明治二十年一月ヨリ十二月マテノ収獲高ヲ掲クルモノトス

一此統計ハ一村一郡ニ様ニ區別スヘシ

但シ淡水産物ニ限毎村ノ調査ヲ省キ一郡ニ調査スヘシ

一本表ニ掲クル海水産物ノ統計ハ生鮮物ト製造物トヲ問ハス現收穫物ノ總計ヲ掲記スヘシ

一本表數量ノ部ニハ箇數斤數ヲ并記スルヲ本旨トスレトモ之ヲ區別シ難キモノハ一項目ヲ掲クヘシ

一此統計ニ掲クル品名ニハ悉ク傍訓ヲ付スヘシ

一甲號様式中漁戸漁人漁舟ノ三箇ヲ掲クルモノハ其收穫ニ比例シ漁利ノ多少ヲ別タシ

カ爲ナリ

一前件漁人ト稱スルハ漁家中男女ヲ問ハス實際漁業ニ従事スルモノヲ云フ

一此統計ノ調査ハ飽マテ精密ナルヲ要ス故ニ雜漁雜介雜蕪等ノ名稱ヲ少ナクシ成ルヘク現品ヲ明記スヘシ

一收穫物ノ統計ハ毎戸ニ就キ之ヲ調査スルヲ本旨トスレトモ若シ右ノ手數行ハシ難キ事情アレハ其村ノ大小ニ應シ十戸若クハ十五戸宛一名ノ委員ヲ設ケ之ヲ公評ニ付スルモ妨ケナシトス

甲號第一







平均配當  
漁戸一戸ニ付金  
漁人一名ニ付金

乙號第一

淡水産物統計表

三重縣何郡

品目	量		代金
	箇數	斤數	
鯉			
鮎			
何々々			

合計	量		代金
	箇數	斤數	
右ニ關スル漁場			
何々川			
何々川			
何々湖又ハ沼地			

右ノ外各所

○訓令第十一號 二十一年二月一日

沿海町村浦役場

行衛不明人ノ儀ニ付愛知縣ヨリ通知ノ件

○訓令第十二號 二十一年二月六日

郡役所 戸長役場

今般縣令第九號ヲ以テ山林取締規則發布候ニ付テハ別冊私有山林組合規約例ニ基キ速ニ規約取扱候様致サスヘシ

(別冊)

三重縣 郡第 號私有山林組合規約

第一章 總則

第一條 明治二十年本縣令第 號私有山林取締規則ヲ遵守シ茲ニ組合規約ヲ定ム

第二條 當組合ハ三重縣 郡第 號私有山林組合ト稱スヘシ

第二章 保護栽植方法

第三條 山林無立木ノ箇處ハ別冊ニ記載スル年限内ニ適地ノ種苗ヲ播植スルモノトス

第四條 萌芽セサル木種ヲ伐採シタル片ハ其伐採木數ノ二倍ヨリ少ナカラサル適地ノ種

苗ヲ一ヶ年内ニ播植シ并ニ火災ニ罹リ枯損セシトキハ五ヶ年内ニ播植スルモノトス

但シ播植種苗枯損セシトキハ一ヶ年内ニ填補スルモノトス

第五條 種苗ヲ播植シタルトキハ其種類員數及字番號反別等ヲ委員ヘ報告スルモノトス

第六條 苗樹ハ二年乃至四年目ノモノニシテ床替ヲナシタルモノニ非ラサルハ移植セ

ルモノトス

但シ床替ヘラセサル天然生ノ苗ト雖モ鉢付ノモノハ妨クナシ

第七條 下柴草等ハ(苗木植付タノ年ヨリ三ヶ年)(樹實播下ノ年ヨリ五ヶ年)間ハ毎年夏

秋ノ二回后ナニテ年ハ秋季一回ツ、刈除クヘキモノトス

第八條 用材林手入伐採ハ植付タノ年ヨリ五ヶ年目ヲ以テ第一期トシ十ヶ年目ヲ以テ第

二期トレ各々秋季ニ施行スヘキモノトス

第九條 火防線設置ノ處及其方法順序左ノ如ク

但既設ノテ所荒廢ニ屬シタル片ハ其都度修復スルモノトス

一 何村何所ヨリ何所ニ至ル長何千何百何間幅何間

但レ此竣工期限ハ來ル何年迄トス

一 全

全

以上龍鬚草ヲ植付ケルコト

一 何村何所ヨリ何所ニ至ル長何百間幅何間

但レ此竣工期限ハ來ル何年迄トス

一 全

全

以上常緑樹ヲ植付ケルコト

一 何村何所ヨリ何所ニ至ル長何百何十間幅何間

但レ此竣工期限ハ來ル何年迄トス

一 全

全

以上溝渠ヲ穿ツコト

一 全

全

以上下柴草等毎年秋季一回刈除クコト

第十條 炭竈ヲ設置スル片ハ周圍ヲ二間乃至三間通リ柴草等ヲ刈除ク時々掃除スヘキモノトス

但レ炭竈ヲ開ク時間ハ可成日出前又ハ日没後ト定ム

第十一條 山林ノ火災又ハ害蟲蔓延ノ徴アル片ハ豫テ定メ置キタル相國ニヨリ實地ハ出張シテ戸長及委員ノ指圖ヲ受テ防禦スヘキモノトス

第十二條 左ノ項目ニ當ルテ所ハ縣廳ノ認可ヲ得ルニ非サレハ妄ニ伐採セサルモノトス

- 一 水源涵養スル林
- 一 土砂ヲ扞止シ巖石ヲ支柱スル林
- 一 風湖積雪又ハ水害ヲ防止スル林
- 一 魚付ニ關スル林
- 一 廻松又ハ測量目標トナル林
- 一 名所舊蹟ノ風致ヲ裝飾スル林
- 一 國郡村市ノ境界ヲ表スル林
- 一 道路並木ニ代用スル林

第十三條 前條ノ各項ニ該當スルテ所ハ左ノ通り

何村何字何番

一反別歩

何々林

何村何字何番

一反別歩

何々林

第十四條 伐採シタル用材ハ委員へ申出打込ニ檢印ヲ受テタル上ニ非サレハ運搬セサルモノトス

第十五條 山林ヲ賣買讓與シタルトキハ双方ヨリ委員へ届テ出ルモノトス

第三章 取締委員及其職務

第十六條 組合員ノ互撰ヲ以テ取締委員一名ヲ置キ其人名ハ郡役所へ届出ルモノトス

第十七條 委員ノ任期ハ滿ニテ年トス

但シ任期中ト雖モ不都合ノ所業アルトキハ改撰セラルモノトス

第十八條 委員ハ違約者ノ處分及經費ノ收支其他組合ニ關スル一切ノ事ヲ處理ス

第十九條 委員ハ組合山林内ヲ一ヶ月以上巡回シ森林ノ盛衰樹木ノ榮枯及規約ノ實施方ヲ監査スヘキモノトス

第二十條 委員ハ左ノ如キ打込檢印ヲ保管シ組合員ノ請求ニ應ジ監守人ヲシ木材及其伐採ニ檢印ヲ打込マシムルモノトス(打込檢印之圖畧)

第二十一條 委員ハ山林火災及蟲害アルトキハ現場ニ出張シ防禦ノ手段ヲナスモノトス但シ火災及蟲害等ノ禍災アルトキ組合中覺知スル爲メ豫テ相當ノ相副ヲ定メ置クモノトス

第二十二條 委員ハ採種播種及栽植ノ季節ヲ誤ラサル様其都度組合員ヘ報告スル者トス

第二十三條 委員ハ每一ヶ年間組合ノ事蹟及經費出納表ヲ調製シ翌年一月三十日限リニ郡役所並ニ組合員ヘ報告スルモノトス

但シ火災蟲害等非常ノ禍害ニ罹リタルトキハ其都度郡役所ヘ届出ルモノトス

第二十四條 委員ハ組合内山林ノ一筆限調帳并ニ植伐臺帳ヲ編成備ヘ置クモノトス

第四章 監守人及其職務

第二十五條 當組合ハ監守人名ヲ置キ其人名ハ郡役所ヘ届出ルモノトス

第二十六條 監守人ハ委員ニ於テ左ノ事項ニヨリ撰定スヘキモノトス

一 組合町村内ニ定籍居住ノモノ

一 滿二十年以上ノ男子ニシテ人トナリ方正身體健全稍々筆算ニ通スルモノ

第二十七條 監守人ハ季員ノ指圖ヲ受テ山林ノ監守ヲナスモノトス

第二十八條 監守人ハ常ニ擔當山林内ヲ巡視シ犯罪及違約者ナキ様注意スヘキモノトス

第二十九條 監守人ハ擔當山林ニ於テ左ノ件々ヲ見認ムルキハ直ニ季員及山林所有者ニ

通報スルモノトス

一 山崩

一 枯損木

一 火防線ノ荒廢

一 有害蟲ノ發生  
右ノ外障害トナルヘキ事件

第三十條 監守人ハ犯罪若クハ違約者ヲ視認ムルトキハ其携帯物品(贓品違約品及犯罪ノ用ニ供セシ器具)ヲ取押ヘ住所姓名ヲ聞札シ違約ナレハ委員ニ報告シ犯罪ナレハ告發ノ手續ヲナスヘシ但シ告發ヲナシタルトキハ其旨直チニ委員及所有者ヘ報道スルモノトス

第三十一條 監守人ハ檢印打込ヨリナシタル片ハ伐採ク所木種木數及所有者ノ姓名等ヲ委員ヘ報告スルモノトス

第三十二條 監守人ハ擔當山林ハ勿論其他ト雖モ山林内ニ火災(即時相當ノ防禦ヲ爲スヘ勿論)若シテハ害蟲蔓延ハ虞有キハ戸長役場及委員(官林ナレハ)其管轄小林區署又ハ派出所ヘ急報シ協力防禦ノ手配ヲナスヘキモノトス

第三十三條 監守人ハ擔當山林ノ一筆限調帳ヲ所持スルモノトス  
第五章 經費

第三十四條 山林取締上ニ係ル一切ノ費用ハ組合員ノ負擔トシ總會ノ議定スル處ニヨル  
第三十五條 組合員ノ負擔スル費用ノ目ハ左ノ如シ

- 一 委員及監守人手當
- 一 委員及監守人旅費
- 一 通信費
- 一 會議費
- 一 筆紙墨其他需用費

第三十六條 金錢ノ出納ハ後証ノ爲メ領收証書ヲ取置クモノトス  
第三十七條 違約金ハ(組合ノ經費中ヘ組入)組合共有財産トシテ儲蓄スルモノトス但シ組合ヲ退去スルモノハ共有ノ權ヲ失フモノトス

第六章 會議

第三十八條 毎年十月定式總會ヲ開キ組合ニ間スル諸般ノ事ヲ議定シ且ツ山林實驗上ノ

利害得失ヲ講究シ利益ノ増進ヲ圖ルモノトス

第三十九條 協會ノ會員ハ山林所有者ヲ以テ之ニ充ツ但シ時宜ニヨリ監守人ヲ加フルコトヲ得

第四十條 委員ニ於テ臨時緊要ト視認ムルコトアルトキ又ハ會員三分ノ一以上ノ請求アルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ得

第四十一條 會議ノ原案ハ委員之ヲ發スルモノトス

第四十二條 議長ハ每會々員中ヨリ互撰スルモノトス

第四十三條 半数以上ノ會員出席スルニ非ラサレハ會議ヲ開クヲ得ス

第四十四條 議事ハ過半数ノ同意ニ依リ之レヲ決ス

第四十五條 議事細則ハ別ニ之ヲ定ム

第七章 違約者處分

第四十六條 第三條第四條第八條第九條第十條第十二條ニ違背シタルモノハ三圓以上拾

圓以下ノ違約金ヲ出サシムルモノトス

第四十七條 第六條第七條ニ違背シタルモノハ五拾錢以上三圓以下ノ違約金ヲ出サシムルモノトス

第四十八條 前二條ノ處分ヲナスヘキモノハ違約者ヨリ其始末書ヲ差出サシムルモノトス

第四十九條 違約品ハ違約處分後チ直チニ本人ヘ還付スルモノトス

但シ第十二條違約品ハ本人ニ還付セス公賣ノ上(組合共有財産トシテ儲蓄ス)(組合ノ經費中ヘ組入ルモノトス

第八章 雜則

第五十條 組合員ハ何時タリトモ金銀出納簿ヲ閱覽スルコトヲ得

第五十一條 規約ハ總會ノ決議ニヨリ郡役所ノ認可ヲ經テ改正増減スルコトヲ得

第五十二條 當山林組合區ニ於テ新ニ山林ヲ所有スルモノアルトキハ委員ハ規約ヲ示シ

同盟簿ニ記名調印セシムヘキモノトス

右之條々確守ノ証トシテ別冊同盟簿ニ記名調印スルモノナリ

年 月 日

備考

一各山林組合區中區域ノ廣狹交通ノ難易等ニヨリ二名以上ノ委員ヲ置ノ要アルトキハ委員中ヨリ委員長一名ヲ舉テ事務ヲ總括セシムヘシ

但レ此場合ニ於テハ其分掌ヲ明カニスルヲ要ス

一火防線設置方法ハ其土地ノ情况ニヨリ適當ノ者ヲ撰フヘシト雖龍鬚草植付ナレハ楯員

一間以上ナラシムヘシ (之ヲ植付スルニハ一坪六寸位ノ苗三四本束チタルモノ百株ヲ適度トス而シテ此苗ヲ一反歩ノ畑地ニテ養生スルトキハ楯員

一間長二百六十間即チ三十六町我) 常緑樹ハ檜山茶交藤木細葉冬青木ヲ最上トス溝

渠ハ五尺以上下柴草刈除キハ幅二間以上ナルヲ要ス

一多町歩ノ薪炭林ハ輪伐方法ヲ設ケルヲ要ス

一規約例第三十九條ノ會員多數ナルトキハ便宜代理人ヲ出スモ妨ケナレ

一從來各自ノ檢印ヲ打込メ習慣アルモノハ殊更ニ監守人ノ檢印ヲ要セム自ラ二十條ノ手續ヲナレ其伐採木種員數等ハ委員監守人ヘ届出サレムルモ妨ケナレ

但此場合ニ於テハ其檢印影ヲ委員及監守人ヘ豫テ届ケ置カシムルヲ要ス

○訓令第十三號 二十一年二月六日

郡 役 所

今般縣令第九號ヲ以テ山林取締規則發布候ニ付テハ左ノ手續ニヨリ取扱フヘシ

取扱手續

一 土地ノ便宜ニ依リ適宜私有山林組合區畫ヲ指定スヘシ

一 規則第六條但書ニ依リ出願ノ箇所取調差出スルハ篤ト實地ヲ調査シ意見具申スヘシ

一 私有山林取締規約認可ノ都度該規約書寫シテ添ヘ報告スヘシ

一 左ノ項目ニ係ルモノハ毎年二月二十八日限リ前年分ヲ取調報告スヘシ



- 一 規約規定實施ノ成績及景況
- 一 違約ニ係ル人員金額及事由
- 一 規約規定實施ニ係ル經費取調表
- 一 山林火災及蟲害アル片ハ其都度報告スヘシ

○訓令第十四號 二十一年二月十日

郡役所 戸長役場

本縣去明治十年始メテ統計表ヲ編纂シ以來年々之ヲ編製スルト雖モ諸般ノ事項物數尙ホ未タ精確詳明ナラス表面比較上或ハ多少ノ増減ヲ見ルアルモ其増減タル實際ニ生セン増減ノミニアラスシテ調査ノ精粗如何ニ由テ起ル所ノモノ亦タ少ナキニ非ス是ヲ以テ實業ノ盛衰消長ヲ證徴スル片ハ大ニ其實ヲ誤リ害ヲ貽スノ恐アリ抑モ統計調査事物ノ精確詳明ナラサルハ之ヲ要スルニ町村實際ノ調査方法區々一定ナラサルニ由ラスンハアラス面シテ其區々一定ナラサルハ統計材料調査ノ主旨及統計ノ効用未タ洽チテ徹底貫通セサル所アリ實際調査上或ハ種々無用ノ嫌疑ヲ以テ事實ヲ隱蔽シテ其實況ヲ告ケヌ或ハ手數ヲ

厭ヒ杜撰ノ調査一時ノ資ヲ塞カントスル等ノ弊習ヲ存スルニ由ル其レ斯ノ如クニシテ之カ改良矯正ヲ謀ルノ時ナクシハ統計ノ材料ハ到底其精確詳明ヲ期スヘカラサルノミナラス甚タシキニ至テハ則チ統計ハ虛事空數ヲ表出スルモノナリトノ感想ヲ與ヘントス焉ソ能ク公私實業ノ盛衰消長ヲ探知スルコトヲ得ンヤ元來統計ヲ調査スルノ要ハ單ニ施政ノ方針ニ便スルカ爲メノミナラス其町村浦内需用供給ノ度ヲ詳カニシ各業盛衰消長ノ實ヲ探究シ以テ之カ改良増進ヲ謀ルノ資ニ供スル等其効用一ニシテ足ラス故ニ町村浦經濟ノ道ヲ立テント欲スル者ハ亦須ラク其町村浦内ノ統計ヲ明ニセサル可ラス是ノ統計ノ最モ必要トスル所ナリ而シテ各種統計中最モ要用トスル所ノ物產統計調査ハ數年前ヨリ勸業通信統計報告規則ニヨリテ之ヲ調査セシムルト雖モ前述ノ如ク物數未タ精確詳明ナラス蓋シ各種統計中其調査困難ニレテ物數ノ精確詳明ヲ欠クハ農工商ニ關スル事項ニ最モ多トス依テ今般縣令第十一號ヲ以テ物產統計調査手續ヲ設テ各町村浦ニ調査員ヲ置キ以テ物產統計調査ノ精確詳明ニ至ルヲ期セントス就テハ郡長戸長ハ能ク前述ノ趣旨ヲ領レ町

村浦人民ニ懇篤説諭ヲ加ヘ速ニ實行候様專ラ尽力スヘシ

○訓令第十五號 二十一年二月十日

郡役所 戸長役場

明治十四年二月ヨリ同二十年十二月ニ至ル徵兵適齡者ニシテ舊徵兵令ニ依リ免役若クハ徵集猶豫ニ屬スル者并新徵兵令ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者罷名稱謂別表日割之通施行セシム候條左ノ手續ヲ爲シ調査ヲ受クヘシ(期限経過ニ付別表零ス)

但別表日割ニ變更ヲ生スルキハ出張官吏ヨリ直ニ通知セシム

一 調査ノ時ハ兵事擔任ノ郡吏一名立會セシムヘシ

一 郡長ハ別表日割ニ部内町村ヲ適宜分付シ毎日午前九時迄ヨリ戸長へ出頭ヲ命スヘシ戸長ハ郡長指定ノ日時ニ戸籍及關係書類ヲ携帶シテ郡役所へ出頭スヘシ

一 戸長ハ文久元年二月生ヨリ明治元年正月生ノモノニシテ免役若クハ猶豫ニ屬スルモノ、戸籍へハ見出シ付シ置クヘシ

一 戸長ハ前項ノモノニシテ客年五月十一日以後所轄外ノ町村へ轉籍又ハ離縁復籍ノモノ

ノアルトキハ其入籍報知書ヲ携帶スヘシ

○訓令第十六號 二十一年二月十四日

郡役所 戸長役場

小學校 小學簡易科授業所

本縣第二郡第三課員中ニ視學委員ヲ定メ別紙視學要項ニ據リ學事ヲ視察セシム

(別紙)

視學要項

第一條 管内ヲ分チテ五視學區ト爲シ每視學區ニ視學委員ヲ定ム其區畫左ノ如シ

第一視學區

桑名郡 員辨郡 三重郡 朝明郡

第二視學區

河曲郡 菟菫郡 安濃郡 一志郡

第三視學區

明治二十一年二月 訓令

鈴鹿郡 阿拜郡 山田郡 名張郡 伊賀郡

第四視學區

多氣郡 度會郡 苔志郡 英虞郡

第五視學區

飯高郡 飯野郡 北牟婁郡 南牟婁郡

第二條 視學上ニ就キテハ特ニ知事ノ訓旨ヲ承テ毎月又ハ隔月ニ各視學區内ノ學事ヲ督察シ時宜ニ依リテハ其狀況ヲ直ニ知事ニ申報スルコトアルヘシ

第三條 學校經濟整理等總テ學事上ニ意見アル事項ハ各管該者ニ協議シ其事實ハ歸屬ノ上知事ニ具申スヘシ

第四條 視學上必要ト認ムル場合ニ於テハ管該者ノ請求ニ依リ若クハ自己ノ見込ヲ以テ戶長校長教員及學校設置組合内ノ人民ヲ招集シ學事ニ就キ説示獎勵ヲ爲スヘキ者トス但自己ノ見込ヲ以テ招集スル場合ハ郡長ニ協議スヘシ

第五條 一視學了ル毎ニ各視學委員ノ會議ヲ開キ學事上一切ノ事ニ就キテ其意見ヲ定メ置クヘシ時宜ニ依リ理由ヲ具シテ知事ニ上申スルコトヲ得

但本文會議ヲ開クトキハ第二部第三課長ヲ以テ會長ニ充ツルモノトス

第六條 視學中ハ便宜督察上ノ大要ヲ第二部長及第三課長ニ報告シ歸屬ノ上ハ日數五日以内ニ日誌ヲ以テ知事ニ復命スヘシ

○訓令第十七號 二十一年二月十六日

警察署 分署

警察官吏召集規定左ノ通相定ム(左書零ス)

但従前召集手續ヲ認可セシ分ハ取消ス

○訓令第十八號 二十一年二月廿一日

郡役所 戶長役場

今般番外ヲ以テ内訓ニ及置候共有山林取締規定例第十條ニ該當スル箇所ニ於テ手入等ノ爲メ止ヲ得ス伐採ヲ要スル片ハ町村會及聯合町村會評決認可前縣廳ノ指揮ヲ受クヘシ

○訓令第十九號 二十一年二月廿一日

郡役所 戶長役場

明治廿年(三月)三重縣訓令第二百十三號備荒公儲金徵収順序中第三條ノ但書ヲ削除シ其  
第廿九條ヲ左ノ通改正ス

第廿九條 郡長ハ納期ニ際シ徵收シタル金額ヲ取調第二號書式ニ據リ徵收濟報告書ヲ  
製シ納期後五日以内ニ之ヲ報告シ納期後ニ於テ徵收シタルモノハ總テ追報書トシテ  
其都度之ヲ報告スヘシ

○訓令第二十號 二十一年二月廿一日

郡役所 戶長役場

明治二十年(二月)三重縣訓令第六十八號地方稅徵收取扱順序中第三條但書ヲ削除ス

○訓令第二十一號 二十一年二月廿四日

沿海町村 浦役場

行衛不明人ノ義ニ付愛知縣ヨリ通報ノ件

○訓令第二十二號 二十一年三月二日

郡役所 戶長役場

明治十九年乙第三十六號通廢止ス

○訓令第二十三號 二十一年三月二日

警察署 分 署

明治十九年(九月)訓令第一號給與雜則中左之通改正來ル四月一日ヨリ實施ス  
第十四條表中給與品左ノ如クス

品目	支給數	使用期限		貸與品
		甲品	乙品	
帽	二	二十四ヶ月	十二ヶ月	從前之通
冬服	二	十六ヶ月	八ヶ月	
夏服	二	十二ヶ月	六ヶ月	
日履	一	六ヶ月	六ヶ月	
雨履	一	二十四ヶ月	二十四ヶ月	
外套	一	二十四ヶ月	二十四ヶ月	
肩掛	一	二十四ヶ月	二十四ヶ月	

肌着	股引	靴	短靴	長靴
一	四	一	六	十
ケ	ケ	ケ	ケ	ケ
月	月	月	月	月

第二十二條中日履ノ二字ヲ削除ス

○訓令第二十四號 二十一年三月六日

伊賀全國 郡役所 警察署 戸長役場

本年五月一日以降來廿二年四月三十日迄ノ間ニ於テ近衛鎮臺後備軍艦員兵員召集ニ係ル事項取扱手續左ノ通相定ム

但本文ノ手續ハ部内居住之艦員兵員へ詳細示達スヘ

一明治廿一年出帥年度(二十一年五月一日ヨリ二十二年四月三十日迄)ヲ指ス以下同ノ中ニ限反令戰時若クハ專斷ニ際スルモ近衛後備軍諸隊ハ編成セラレヌ近衛歩工兵科ノ後

前へ入備軍艦員兵員ハ後備軍召集ノ片鎮臺後備軍艦員兵員ト同時ニ召集シ鎮臺後備歩工兵隊ニ編入ス故ニ該艦員兵員ノ召集令狀ハ近衛ノ令狀ニ換エルニ鎮臺ノ令狀ヲ用ユ其召集ノ手續等ハ陸軍召集條例並ニ本縣訓令陸軍召集事務細則中總テ鎮臺後備軍艦員兵員ノ例ニ同シ

一明治廿一年出帥年度中ニ限リ騎砲輜重兵科ノ鎮臺後備軍艦員兵員ハ充員召集ノ片鎮臺豫備役艦員兵員ト同時ニ召集シ騎砲兵科ノ近衛後備軍艦員兵員ハ近衛充員召集ノ片近衛豫備役艦員兵員ト同時ニ召集ス其召集ノ手續等ハ陸軍召集條例並ニ本縣訓令陸軍召集事務細則中鎮臺豫備役艦員兵員若クハ近衛豫備役艦員兵員ノ例ニ同シ

一騎砲輜重兵科ノ鎮臺後備軍艦員兵員並ニ各兵科ノ近衛後備軍艦員兵員ニシテ他ニ寄留中召集發令ニ際スル片召集ニ應スヘキ手續又ハ便宜ニ依リ寄留地ヨリ直ニ召集地等ニ到ラント欲スル者出願並ニ許可ヲ受ケタル後召集ニ應スヘキ手續ハ明治廿一年出帥年度中ニ在テハ左ノ如シ

一騎砲輜重兵科ノ鎮臺後備軍艦員兵員ハ充員召集ノ片召集スヘキヲ以テ本縣訓令陸軍召集事務細則中總ヲ鎮臺豫備役艦員兵員ノ例ニ同シ

一騎砲兵科ハ近衛後備軍艦員兵員ハ近衛充員召集ノ片召集スヘキヲ以テ本縣陸軍召集事務細則中總ヲ近衛豫備役艦員兵員ノ例ニ同シ

一步工兵科ノ近衛後備軍艦員兵員ハ後備軍召集ノ片召集スヘキヲ以テ本縣陸軍召集事務細則中總ヲ鎮臺後備軍艦員兵員ノ例ニ同シ

○訓令第二十五號 二十一年三月六日

郡役所 戸長役場

明治九年(八月)本縣地甲第廿四號達ヲ廢ス

○訓令第二十六號 廿一年三月七日

郡役所 戸長役場

明治十九年度中町村費ノ外町村ノ全部ヨリ支出セシ儲積ノ費用取調ヲ要スル義有之候條各費目ニ種別ノ戸長役場毎ニ取纏ノ本月廿日限郡役所へ差出レ郡役所ニ於テハ之ヲ一郡ニ取纏ノ同月廿五日限縣廳へ進達スヘシ

但米穀其他ノ現品ヲ出シ又ハ人夫等ヲ出シタルモノハ其實際ヲ取調郡役所ニ於テ該年度中平均相場及相當貸錢額ニ依リ其見積リ金額ヲ復書スヘシ

○訓令第二十七號 二十一年三月十三日

郡役所、警察署  
同分署、戸長役場

伊賀國ヲ除ク  
本年五月一日以後翌年四月三十日迄ニ於テ近衛後備役騎砲兵科ノ艦員兵員ハ近衛充員召集ノ令ニテ召集相成ヘシ又鎮臺後備役騎砲輜重兵科ノ艦員兵員ハ(第一)(第二)充員召集ノ令ニテ悉皆召集可相成ニ付右ニ依リ諸事取扱ヲナスヘシ

○訓令第二十八號 廿一年三月十三日

郡役所 戸長役場 縣立學校 病院

明治廿一年度地方稅收支科目別冊ノ通り之レヲ定ム

(別冊)

一豫算決定額ニ對シ實費過不足ヲ生セントシ萬不得止片ハ左ノ大科目ハ一大科目限リ小

科目ハ該中科目内ニ於テ彼是適宜流用スルコトヲ得

但土木費中費雜ノ小科目ニ限リ一大科目中ニ於テ是彼適宜流用スルコトヲ得

一前項適宜流用ヲナセシキハ其科目ニ對シ流用ヲ要セシ事由及金額ヲ詳悉シ其時々之ヲ知事ニ報告スヘシ

適宜流用科目	
大科目	小科目
教育費	
浦役場及離破松諸費	
戸長以下給料旅費	雜給中一時賜金ヲ除ク
	給助賜金
	賞與
	入學費
	諸手当
	警察費監獄費ニ限ル

備品	傳染病豫防費ニ限ル
消耗品	
印刷費	勸業費ヲ除ク
郵便税	
電信料	
運搬費	
賄費	
患者費	傳染病豫防費ニ限ル
留置及囚人諸費	
留置人員	
修繕費	揭示諸費及傳染病豫防費ニ限ル
諸手数料	









寄附金	國庫下渡金	前々年度繰越金	地方稅不納官沒品拂下代	地方稅不納官沒地拂下代	雜種稅延納	營業稅延納	
地方費科目	大科目	中科目	小科目	細節	警察費	俸給	巡查月給

應費	被服費	諸手數料	賞與金	勉勵賜金	給助賜金	管外旅費	管内旅費	區內旅費	備給	雜給	備員月給
	帽子夏冬服引日帽履履外套長短靴々下等々查給與	爲換方給料新聞紙廣告料爲換手數料以下比目全	巡查職務上功勞賜金	巡查以下小使ニ至賜金	巡查へ賜金	巡查備員出張旅費	巡查備員出張旅費并ニ証人鑑定人旅費	巡查ニ限ル	給仕小使給料醫師鑑定人日常攝取或護人車備貸送持備人足貸		月日給雇

備用品	椅子、テーブル、書箱、書籍、硯箱、土瓶、茶碗、火鉢、時計、算盤、ランプ、その他必需ノ備品、新調修繕トモ以下此費目ニ皆全シ
消耗品	請紙、筆、墨、茶、生、炭、薪、炭、油、蠟燭、其他必需品以下此費目ニ全シ
印刷費	警署、警察一覽表、巡查、渡請規則、職員録ノ類
便郵稅	便郵爲換料トモ以下此目ニ皆全シ
電信料	手數料トモ以下此目ニ皆全シ
運搬費	物品及現金公文書類ノ運送ニ要スル人足、貨車、馬、備貸荷造用品(封筒、額、除シ)以下此費目ニ全シ
賄費	小使宿直、休暇日當直、賄料、巡查并ニ雇員以下臨時辨當料
留置及囚人諸費	留置人賄料、囚人護送途中賄料及人力車駕籠賃、舟橋渡立、座草、鞋藥、價ノ類
庶費	馬丁給料、旅費、馬飼等ノ給料、馬具、馬底付雜具、飼料、薪、炭、油、藥、鉄、履、馬借入料ノ類
入學費	備品、消耗品、其他小使雇給ノ類
雜費	借家料、物品借入、損料、官給拾取者報勞金、取締ニ係ル鑑札、借地料、巡查宿代、共

警察舎建築修繕費	建築費	四日市警察署	表門外溝渠場所替并板塀建設費
	修繕費	警察本部	小破修繕
		巡查教習所	全上
		桑名警察署	拘留所模樣替并小破修繕
		南大社警察署	小破修繕
		四日市警察署	板塀并溝印其他小破修繕
		關警察署	拘留所模樣替并小破修繕
		神戸警察署	小破修繕以下全關
		津警察署	



俸給	雜給	常置委員月手當	雇給	旅費	諸手當	備品	消耗品	印刷費	郵便稅	電信料	贈費
			書記受付及雜務掛給仕小使講場門番給料臨時雇入人足賃	議長議員常置委員旅費	寫字料等枚數當リヲ以テ給與以下此目。			議案及報告議事筆記決議錄意見報告ノ類			受付外使宿直贈料書記以下小使ニ至ル臨時居處掛當料

衛生及病院費	衛生費	○	建築費	雜費	修繕費
			土藏一棟取除費	宿直臥具借入掛料	講場内所々叩々其他小破修繕
			日常旅費需用品雜費		
			衛生會非職委員手當		
			衛生會委員旅費		
			管内旅費		
			備品		
			消耗品		
			印刷費		



教育費	慰勞手當	除防ニ從事スル醫師雇員等慰賜ノ者ハ給與
	備品	
	消耗品	
	郵便稅	
	電信料	
	運搬費	
	賄費	醫師雇員以下臨時辨當料
	患者費	貧困患者施藥料全上患者必需品吐瀉物運搬器械衣類買上及火葬費
	救助費	交通遮斷ノ爲メ貧困旅人又ハ其町村貧民目下生活ニ苦シムル及ヒ避病場入ノ等救助米ノ代
	修繕費	避病院又ハ檢疫所等借入ノ修繕
	雜費	檢疫所避病院隔離所等ニ借入家屋其他物品借入損料ノ類

	薪常師範俸校費	
	校長月給	
	幹事月給	
	教員月給	
	舍監月給	
	書記月給	
	備給	雇員喇隊手小使門番給其他掃除人足賃
	旅費	各小學校檢閱ノ爲メ職員中出張旅費及行軍演習ノ日常并管外ヨリ赴任旅費
	慰勞手當	解職ノモノ手當金
	書籍	參考用書
	器械	理化學唱歌數學員學体操器械類
	練習費	理化農學演習用手工用品



諸手當	諸手數料	備品	消耗品	印刷費	郵便稅	電信料	運搬費	雜費	生徒費	修繕費	附屬小學費
								雜費 雜費 軍演習ノ際雜費	被川及食費一週間手當修繕及浴湯費日用品療養費	窓硝子板其他小破修繕	中高等科尋常科ニ併ル掃除人夫賃及備品消耗品

尋常中學校費	校長月給	教員月給	書記月給	備給	旅費	慰勞手當	書籍	器械	練習費	諸手當	諸手數料
				喇叭手小使門番給掃除人足賃	管外ヨリ赴任旅費	職職ノモノニ手當	參考用書	物理地文學化學体操書學農學器械 理化博物書農學用			

生徒游學費	印刷費	修繕費	賞與	雜費	運搬費	電信料	郵便稅	印刷費	備用品	備用品
學事年報		硝子紙帳障子修繕小破修繕	生徒へ與賞品及水引包紙ノ類	掃庭揚々場及農業器械入小屋借入						

郡縣會建築修繕費	建築費	修繕費	桑名郡廳舍	員辨郡廳舍	鈴鹿郡廳舍	奄郡廳舍 河曲郡廳舍	一志郡廳舍	飯高郡廳舍 飯野郡廳舍	阿拜郡廳舍 山田郡廳舍	醫學費	族費	郡縣會建築修繕費
			板塀其他小破修繕	軒樋其他小破修繕	屋根并懸水溝其他小破修繕	小破修繕	床并柵其他小破修繕	表長屋建繼人民扣所換機替費	厠建築費	醫科大學及同別課生給費	游學生種懸族費	





諸達書及揭示諸費	諸達書費	縣令訓令諸達費	公報筆記訓令トモ
揭示諸費	修繕費	揭示場ノ修繕	
雜費	揭示場敷地料		
勸業費	○		
栽培試驗費			掛員給料旅費雇耕夫月日給需用品並ニ人民 請求ノ苗木種物買入代之ニ屬スル運搬費 具肥料耕馬飼料水田借地料肥料製造小屋 建築事務所等修繕
養蠶傳習場費			教師給料旅費及物品借入損料器械備品消耗 品桑葉代蠶卵種生徒賄費印刷郵便電信運送 并傳習所借家料修繕費トス

戶長以下給料旅費	俸給	戶長給料	委員長年給旅費及事務取扱費
雜給	筆生給料	印刷費	報告年報
勸業委員會費	勸業講習場費	會員旅費日當	
戶長一時賜金	旅費		

教師教員給料旅費及小使給料臨時雇人足器  
械書籍備品消耗品運搬郵便電信料並生徒寄  
宿舍借家料及蚊帳借リ入薪炭油月手當其他  
明割費ニ要スル物品代



備品	消耗品	器械	印刷費	郵便稅	電信料	運搬費	賄費	刑具諸費	戒具諸費	囚人護送費	雜費
		醫療調劑器新調修繕	監獄統計表				看守以下小使等宿直當直其他看守不寢番賄料臨時辨當料	絞罪器械等	縛繩連鎖等	醫師備料及繩取備貸	桑名出張所家屋借入料及掃衣拾得報勞金

未決囚諸費

飯米代	菜代	雜費	浴湯費	賄費	被服費	臥具費	療養費	埋葬費	雜品費	移轉費
下白米挽割麥	魚肉野菜味噌醬油鹽ノ類	澁澁補綴又ハ炊用薪炭其他一身ニ係ル日常諸費	薪代及焚夫賃	拘留狀ヲ發シタル后警察署拘留場へ拘留中賄料	綿入拾單衣帶手拭等	蒲團蚊帳枕等	藥價蟬針牛乳晒木綿石鹼ノ類	囚人病死ニ係ル早桶繩俵名標取片附人足賃	炊具食器理髮具風呂桶防臭藥耆尤ノ類	病囚裁判所へ呼出ノ節途中車駕雇賃

輕罪控訴拘禁人 諸費	已決囚諸費	飯米代	菜代	雜費	浴湯費	賄費	被服費	臥具費	療養費	埋葬費	寫真費
		下白米挽割麥	魚肉野菜味噌醬油鹽ノ類	澀濯補綴又ハ炊用薪炭其他一身ニ係ル日常諸費	薪代及焚夫賃	米菜ヲ區別セス一賄若干トシテ支給スルモノ并罰金ヨリ換ル留置者ノ宿料	綿入常衣短衣袷全上單全上拾單股引袴袴男 女帶揮手拭淺黃木綿布番號襟等	蒲團蚊帳枕等	藥價蠟針牛乳晒木綿石鹼ノ類	囚人病死ニ係ル早桶繩棒名標取片付人足賃ノ類	

縣監署建築 修繕費	建築費	習學諸費	工業諸費	賞與	雜品費	移轉費
		安濃津第一監獄	山田監獄	四日市監獄	安濃津第一監獄	
		紙工場切縮及建据周圍板棚建築車置場設治 工場模樣替囚徒浴湯場引据浴湯廁改築費	周圍板棚取替費	獄舎建替第一監引据事務所換樣替設置建設費	署内所々壁薪屋根床軒樋内外板棚及工業場 ノ内板棚周圍竹柵并各監房錠印ノ硝子紙 帳障子敷物工業場裏板庇ノ硝子燈井戸炊場 竈其他小破修繕	途中賄費車駕備賃松橋鐵笠草履草鞋藥價 ノ類
		戀治人習學ニ要スル筆紙墨書籍腰掛机等	工業器械等	奇特及殊勝者へ給スルモノ或ハ賞表ニ係ル 諸費	炊具食器理髮具風呂桶防臭藥茶朮ノ類	





ヲ別ニ入營ノ部ト題シ從前列記ノ順序ニ勝寫シ之ヲ組長ノ部ノ次ニ編綴シ而シテ從前  
輸卒ノ部中其勝寫シタル人名塗抹スヘシ又之ト同時ニ從前輸卒ノ部ヲ未入營ノ部ト改  
正シ其等級ノ區畫「○」印ヲ脱スヘシ

○訓令第三十一號 二十三年三月二十一日 郡役所 警察署 同分署 戶長役場  
縣下茶業組合聯合會議所規約別紙之通リ認可ス

但郡組合同規約ハ其管轄地組合ヨリ届出ル管ニ付其旨心得ヘシ

(別紙)

聯合會議所規約御認可伺

明治廿年農商務省令第四號茶業組合同規則ニ據リ當縣下各茶業組合聯合會議ヲ開キ別紙聯  
合會議所規約并ニ事務員章程共議定仕候ニ付御認可被下度此段相伺候也

三重縣茶業組合聯合會

明治廿一年二月廿九日

議長 深山始三郎 印

〔朱書〕 三重縣知事石井邦猷殿

書面之趣認可ス

明治二十一年三月二日

三重縣知事石井邦猷印

三重縣茶業組合聯合會議所規約

第一章 總則

第一條 縣下茶業組合員ハ茲ニ定ムル規約ヲ遵守スルモノトス

第二條 當聯合會議所ハ安濃郡津ニ設置シ三重縣茶業組合聯合會議所ト稱ス

第三條 當聯合會議所并ニ事務員ニ於テ用フル印章左ノ如シ

方	三	重	縣	茶	字	體
業	組	合	聯	字	體	方
合	會	議	所	六	方	三
寸	之	印		分	合	會
				事	務	員
				之	印	
				全	上	

第二章 製茶改良及販路ヲ擴張スル方法

第四條 製茶ハ本邦固有ノ宇治製ヲ本旨トシ傍ヲ他ノ製法ヲ研究スルモノトス

第五條 製茶ノ改良ハ茶園ノ耕耘培養及茶芽摘採ノ期節ヲ過サルヲ必要トス故ニ各組長委員ニ於テ宜シク之ヲ勸誘スルモノトス

第六條 販路ヲ擴張スルハ海外需用者嗜好適合ノ視察ヲ要ス故ニ視察人ヲ米國へ派遣スルモノトス

第三章 製法及販賣上ノ弊害ヲ矯正スルノ方法

第七條 各組合ニ於テハ茶ノ製法ヲ精良ニシテ粗製濫造ノ弊害ヲ矯正スルヲ目的トスヘシ故ニ左ニ掲グル製茶ハ製造及賣買ヲ禁止スルモノトス

第一項 粗惡茶

一 半天製

一 鍋釜製

但シ蒸シニ代ルニ鍋ヲ以テ生葉ヲ煮ルハ此限ニフラス

一日乾製

但シ普通ノ番茶及紅茶ハ此限ニフラス

一 右ノ外之ニ類スル製品

第二項 不正茶

一 他葉ヲ用ヒテ擬似ノ品ヲ製シ或ハ之ヲ良茶ニ混淆セシモノ

一 製造中土砂等ヲ混入シ故ヲ秤量ヲ増加セシモノ

一 潮入又ハ雨濕等コテ腐敗ニ至リシ品ヲ再乾偽造シ又ハ之ヲ混淆セシモノ

一 硬強ナル粗葉ニ粘質物ヲ用ヒ若クハ種々ノ手段ヲ施シ腐敗セシ良茶ニ偽造シ又ハ混淆セシモノ

一 製造中綠葉又ハ鐵氣ノモノ及油煙灰汁ノ類ヲ加ヘ黑色ヲ與ヘテ良茶ニ偽造シ又

一 ハ混淆セシモノ

一 既製ノ茶ニ墨鉛等ヲ以テ着色シ其茶ニ偽造シ又ハ混淆セシモノ  
一 右ノ外之ニ類スル製造并ニ精製

第八條 前條ニ禁止シタル製茶ハ他府縣産ト雖モ之ヲ賣買受授スルコトヲ禁止スル者トス  
第九條 製茶貯藏ハ火入ヲ充分ニナシ必ス蓋又ハ澁引張函ヲ用ヒ紙袋又ハ粗製ノ箱等ハ  
決シテ用フヘカラス

第十條 荷造ハ箱蓋又ハ澁引ノ紙袋ヲ用ユルモノトス但屠茶ハ此限ニアラス

第十一條 見本茶ヲ以テ賣買ノ約定ヲナス片ハ其見本茶ヲ双方立會ヒ封印ヲナシ置キ他  
日現品受授ノ際紛議ヲ生セサル様互ニ注意スルモノトス

第四章 都下組合ニ關スル事務ヲ處辨シ及紛議ヲ仲裁スル方法

第十二條 第三十三條ノ印証ハ聯合會議所ニ於テ調整シ各組長ヘ配付シ置クモノトス

第十三條 各組合ニ於テハ毎年製茶産額及茶畑反別ヲ取調十二月十日限リ聯合會議所ヘ  
報告スルモノトス但シ四日市組合ニ於テ製茶賣買取扱數量ヲ別ニ取調報告スルモノ

トス

第十四條 當聯合會議所事務員ニ於テ事務上必用ト認ムル片ハ各組長ヲ招集シ會議ヲ開  
クコトヲ得組長ニ於テ事務打合せノ爲メ集會ヲ要シ三分ノ一以上ノ請求アル片ハ之ヲ開  
クコトヲ得

第十五條 茶業上ニ付紛議ヲ生シタル片ハ左ノ項目ニ據リ組長ニ於テ之ヲ仲裁スルモノ  
トス

第一項 賣買上ニ付關シ紛議ヲ生シタル片ハ組長ハ其事實ヲ取調ヘ正否ヲ判明ナラシ  
メ双方ノ熟議ヲナサシムヘシ

第二項 前項ノ場合ニ於テ双方又ハ一方服セサル片ハ双方ヨリ一名ヲ、ノ審査員ヲ當  
業者中ヨリ指定セシメ其正否ノ見込ヲ申告セシメ組長ハ之ヲ調査シ其當ヲ得タルモ  
ノト認ムル片ハ之ヲ双方ニ示シ仲裁ヲナス

第三項 前項ノ紛議甲乙組合ノ同業者中ニ生スル片ハ各組長協議ノ上二名以上ノ審査

員ヲ指定セシメ其評決ニ據リ仲裁スルモノトス

第四項 前二項審査員ノ評決組長ニ於テ不適當ト認ムル片ハ更ニ審査員ヲ撰定セシムルカ又ハ組長之ヲ指定スルコトアルヘシ

第五項 他府縣下ニ渉ル紛議ハ其組長ヨリ聯合會議所ニ申告シ同所ヨリ關係府縣聯合會議所ヘ照會ヲナシ雙方組長協議ノ上其方法ヲ定ム

第六項 前各項ノ紛議ニ據リ生スル費用ハ總テ曲者ノ負擔トシ曲直ノ別ナキ時ハ審査員ヲシテ双方ノ負擔額ヲ調査セシメ組長ニ於テ正當ト認メ双方ヘ相示シタル片ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但費用ハ即時之ヲ取立ツルモノトス

第七項 前各項紛議仲裁實行ノ場所ハ總テ紛議ノ起リタル地ノ組合事務所ニ於テ施行スルモノトス

但シ事宜ヨリ組長實地ニ出張シ又ハ本文ノ場所ヲ變更スルコトアルヘシ此組合ノル片ハ組長ノ旅費日當ハ關係人ノ負擔スルモノトス

第五章 聯合會議ノ議員及事務員撰擧ノ方法

第十六條 當聯合會議所ノ議員ハ各組合ヨリ左ノ割合ニ應シ其組合營業者中ヨリ撰出スルモノトス

一 製茶六萬貫以上 三人

一 製茶三萬貫以上 二人

一 製茶貳萬貫未滿 一人

一 四日市組合ハ製茶買高三十萬貫未滿一人三十萬貫以上二人

一 營業者中議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歳以上ノ男子ヨリテ組合内ニ定籍住居

シ三ヶ年以上茶事ニ従事セシモノニ限ル

但シ左ノ各項若クハ一項ニ觸ル者ハ議員タルコトヲ得ス

一 項 風癪白痴ノモノ

二 項 公權剝奪及停止セラレタルモノ

三項 身代限リノ處分ヲ受テ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノ

第十七條 當聯合會議所ニハ事務員一名ヲ置キ諸般ノ事務ヲ取扱ハシムルモノトス  
但シ事務章程ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 當聯合會議所ノ職員及役員任期ハ滿ニテ年トシテ滿期再撰スルコトヲ得

第六章 聯合會議ニ關スル規程

第十九條 通常會ハ毎年二月之開キ臨時會ハ聯合會議所事務員ニ於テ開會セサルヲ得ス  
ト認ムル片又ハ議員三分ノ一以上ノ請求アル片ハ之ヲ開クヘシ

第二十條 聯合會議ノ議案ハ會議所事務員之ヲ發ス

第二十一條 通常會ニ於テ議スヘキ事項左ノ如シ

但シ臨時會ハ特ニ其會議ヲ要スル事件ニ限ル

第一項 會議所經費ノ收支豫算

第二項 聯合會議所規約ニ關スル條件

第三項 其他各組合茶業ニ關スル件及職員ヨリ提出シタル件

第二十二條 會議ノ日數通常會ハ十日以内臨時會ハ五日以内トス

但シ時宜ヨリ日數ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第二十三條 聯合會ノ職員ハ旅費日當ヲ給ス

但シ金額支給法ハ別ニ之ヲ定ム

第七章 違約者處分ノ方法

第二十四條 第七條第八條ニ禁止シタル製茶ヲ製造シタル者又ハ之ヲ賣買受授シタル者

ハ荒茶精製茶ノ別ナク一貫目ニ付金五拾錢以上五圓以下ノ違約料ヲ出サシメ其違約品  
現在スル片ハ之ヲ燒棄テ既ニ他ヘ賣渡シタル後發覺セシ片ハ其賣上代金ヲ併セ取立ツ  
ルモノトス

但シ其轉賣ニ亘ルモノハ本條ニ據リ各其賣上代金及違約料ヲ併セ取立ツルモノトス  
第二十五條 第三十四條ノ一項若クハ數項ニ違背セシモノハ違約料トシテ荷勅一個ニ付

金拾錢以上五拾錢以下ヲ出サシム其賣買ニ係ルモノハ双方ヨリ各々之ヲ取立ツルモノトス

第二十六條 第三十五條ニ定メタル印證料ヲ増減受授シタル者ハ違約料トシテ一枚ニ付金拾錢ツ、ヲ出サシム

第二十七條 第十五條第六項ノ費用ヲ即時差出サシムモノアル片ハ違約料トシテ其金額ノ二倍ヲ取立ツルモノトス

第八章 經費賦課徴収支出ノ方法

第二十八條 當聯合會議所ニ要スル經費ノ目ハ左ノ如ク

- 一 事務員手當金旅費
- 一 書記小使雇給
- 一 備品借家料及筆紙墨薪炭油等ノ諸費
- 一 電信郵便脚夫賃其他報告費

一 聯合會議ニ關スル諸費

一 印刷費

一 中央會議員手當金

一 豫備費

第二十九條 前條ノ經費ハ各組合前々年度ノ印証使用高枚數ヲ以テ定率ヲ設テ各組合ニ賦課ス

第三十條 前條ノ費用負擔額ハ各組合ヨリ左ノ期日ニ聯合會議所ヘ送付スルモノトス

一 五分通リ 其年五月十日限リ

一 五分通リ 其年九月十日限リ

第三十一條 當聯合會議所ノ會計年度ハ三月ニ起リ翌年二月ニ終ル

第九章 雜則

第三十二條 縣下各組合員ノ携帶スル証票料ハ左ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

但シ細則ハ各組合ニ於テ之ヲ定ム

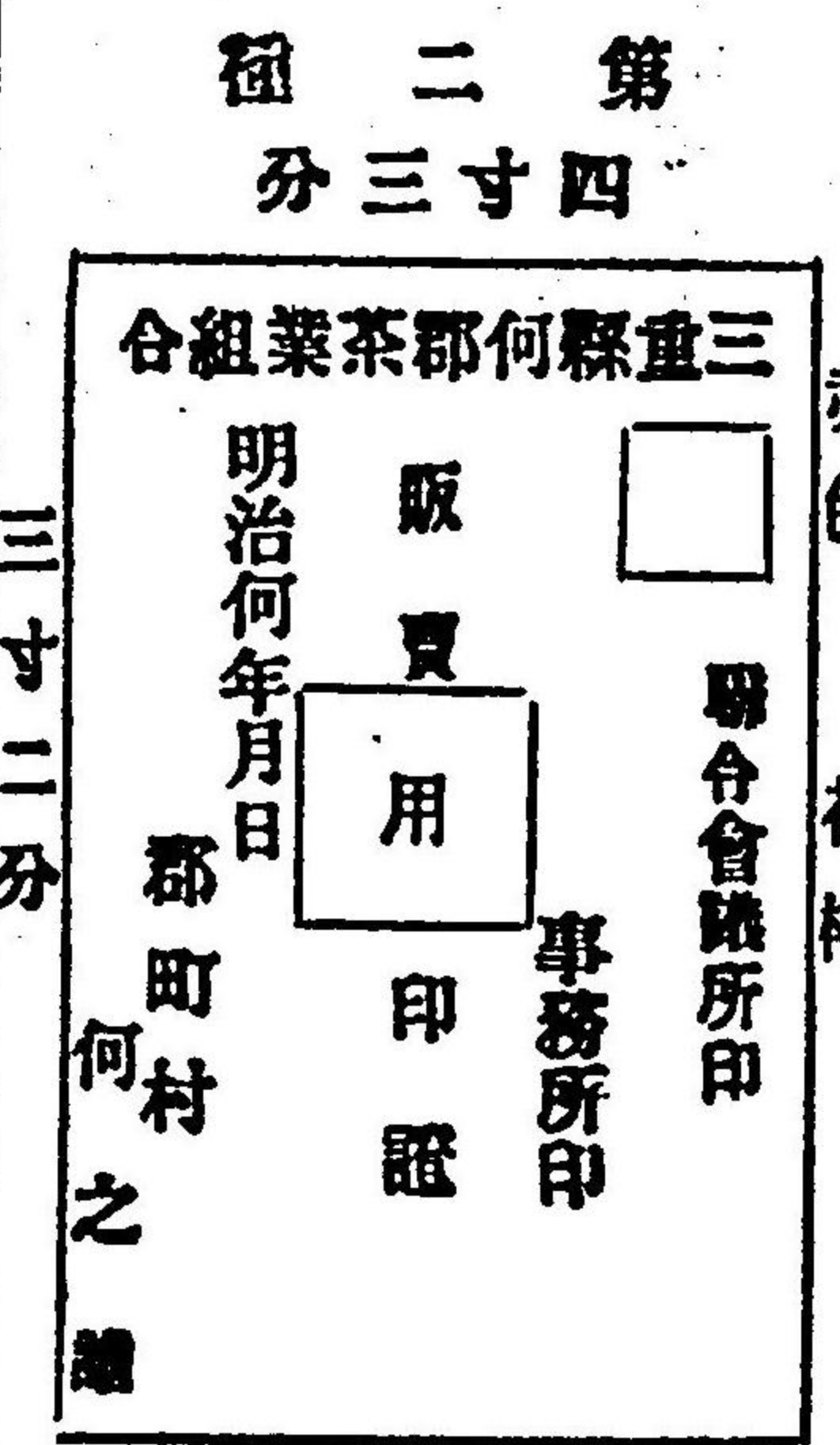
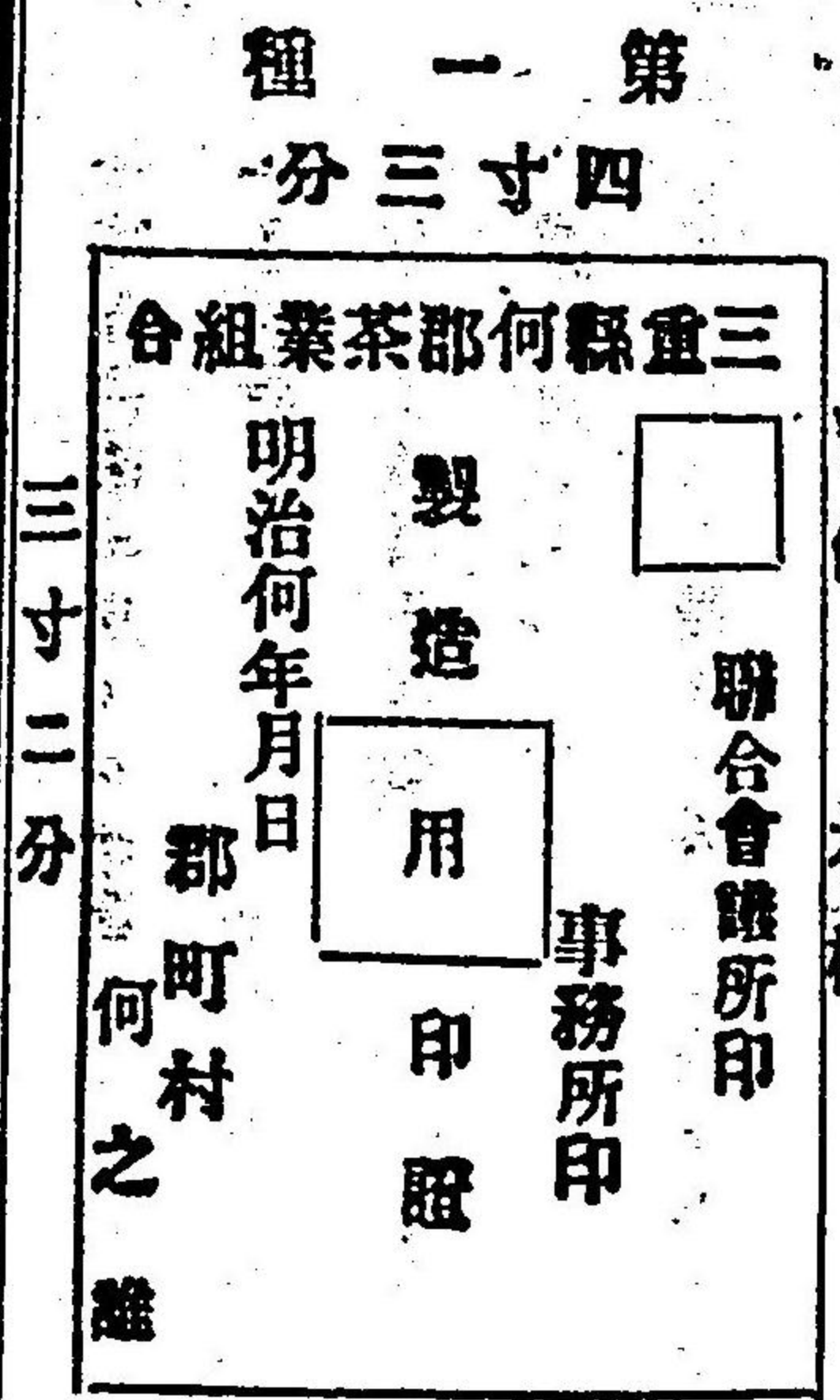
茶商人 金七拾錢以下拾錢以上

但シ生葉仲買人モ含著ス

製茶人 金五拾錢以下拾錢以上

生葉販買者 金五拾錢以下貳錢以上

第卅三條 縣下各組員ハ製造人販買人ノ住所姓名ヲ明瞭ニシ純真茶ナルヲ証スル爲メ左ノ雛形ノ如キ印証ヲ荷物見易キ處ニ貼付スルモノトス



第卅四條 前條印証ハ荷物壹箇毎ニ貼付スルモノトシ其貼付法ハ左ノ如シ

但シ印証ヲ貼付スル最少ノ斤量ハ各組合ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

第一項 製造人ハ製茶ヲ貼買又ハ運搬スル際必ス第一種ノ印証ヲ貼用スヘシ

第二項 茶商人ハ製茶ヲ買受テ運搬スル片又ハ箱詰或ハ荷物ヲ運リ換ヘ轉賣シ且ツ

運送スルニ際シ出荷スル毎ニ第二種ノ印証ヲ其荷主ニ於テ貼用スルモノトス

但シ外國ニ直輸スル荷物ハ此限ニアラス

第三項 印証面ニ年月日及住所姓名ヲ記入請印スヘシ

第四項 印証ヲ貼用シタル片ハ印証ト荷物ニ掛テ姓名ノ下ニ押捺シタル印ヲ以テ割

印スルモノトス

第五項 已ニ使用シタル印証ハ再用スルヲ許サズ一度印証ヲ貼付シテ使用シタル茶

櫃又ハ立袋ヲ再ヒ用フル片ハ更ニ印証ヲ貼付スルモノトス

第六項 印証ハ其組合ノ印証ニアラサレハ使用スヘカラス若シ他組合ノ印証ヲ貼付



スルモ其効ナキモノトス

第卅五條 第卅三條ノ印証料ハ壹枚付ニ金壹錢トス

但シ南北半葉ニ組合ハ此限ニアラス

第卅六條 甲組合員乙組合ニ到リ製造所或ハ店舗ヲ設ケ茶葉ヲ營ム片ハ其組合ヘ同盟スルニアラサレハ營業スルヲ得ス

第卅七條 當聯合會議所ノ役員ハ相當手當金及旅費ヲ給ス

但シ其金額及支給法ハ別ニ之ヲ定ム

第卅八條 當聯合會議所ニ於テハ事務多忙ナル片ハ臨時雇員ヲナスヲ得

第卅九條 他組合員ニテ第卅四條ニ違背シタルモノアルトキハ其發覺地ノ組長ニ於テ第

廿五條ニ據リ之カ處分ヲナシ違約者ノ組合事務所及ヒ聯合會議所ヘ處分濟ノ報告ヲナスモノトス

但本文無印証ナル片ハ處分濟ノ上處分地組合ノ印証ヲ貼付セシメ印証面ニ其事由ヲ

明記シ組長又ハ委員ニ於テ捺印ヲナスヘシ

第四十條 各組長ニ於テ左ノ項目ヲ實行スル場合ニハ之ヲ拒ムヲ得ス

一 第十五條第四項ニ示シタル審査委員ヲ指定シタル片

但正當ノ事故アルモノハ此限ニアラス

一 規約ニ違背シタル茶荷物ヲ差押ヘ又ハ之カ保管方ヲ委托シタル片

○訓令第三十二號 二十一年三月二十三日

郡役所 戸長役場

明治廿二年二月訓令第二百九十四號戸長以下給料旅費支給法第八條左ノ通り改正シ明治廿一年度ヨリ施行ス

第八條戸長以下旅費ハ全額ノ四分ヲ前々年度以前三ヶ年度ノ實費ニ三分ヲ合戸數ニ三分ヲ郡役所ヨリ戸長役場迄ノ里程ニ據リ之レヲ下付ス

但郡役所ニ於テハ各戸長役場事務ノ繁簡等ニ據リ適宜斟酌ヲ加ヘ配當スルヲ得

○訓令第三十三號 二十一年三月廿三日

沿海町村補役場

行衛不明人ノ着ニ付愛知縣ヨリ通知ノ件

○訓令第三十四號 二十一年三月二十七日

郡役所

明治二十年(二月)訓令第百二十四號地方稅(地租制ヲ除ク)賦課ノ個數及ヒ商業工業料理屋飲食店ノ課額戶數人員等報告期限ノ内第二號第三號表四月十五日トフルヲ五月三十一日ト改定ス

○訓令第三十五號 二十一年三月二十七日

沿海郡役所 沿海町村浦役場

スクーナー形米國船ヲレイト號(二十二噸積)ガロユウ島(マリアナ群島)サン、ルサ、ト、アプヲ港碇泊中客月一日夜船長上陸中運轉士及ヒ水夫四名乗込ミタルマ、出帆行衛不知由在東京西班牙代理公使ヨリ通知有之候旨ヲ以テ米公使ヨリ該船ニ關シ自然見聞候義モ候ハ、通報候様外務大臣へ依頼越候趣同大臣ヨリ照會ノ次第モ有之候ニ付同船所在見聞候者有之候ハ、速ニ當廳へ届出ヘシ

○訓令第三十六號 二十一年四月四日

郡役所

小學校長教員授業生并ニ小學生徒ノ貯金法ヲ設備セシメ部内ハ其金高及實況ヲ詳具シ毎年一月七月中其部内取纏ノ報告スヘシ

○訓令第三十七號 二十一年四月六日

昨二十年大藏省第五十九號訓令ニ基キ内國稅統計彙帳編製ニ付左記凡例及別紙様式ニ據リ取調毎年五月三十一日限リ差出スヘシ (左記零) 但様式ハ別途送付ス

○訓令第三十八號 二十一年四月六日

郡役所 戶長役場

朝明郡中野村平民山川末治郎ニ附與ノ小學校授業生免許狀稅收ニ付採用セサラシム

○訓令第三十九號 二十一年四月六日

第一部歳入内國稅ニ係ル營業者不納公賣處分ノ末官損及不納ノ儘失踪セシモノ等別紙ノ通所轄縣廳ヨリ通報越ノ件

○訓令第四十號 二十一年四月十日

郡役所 戶長役場 縣立學校 病院

地方税雑収入收納規則第二條へ左ノ但書ヲ加へ第三條ヲ削ル

第二條へ左ノ但書ヲ加フ

但本條現金若クハ預リ券ヲ以テ納付スル場合ニ於テハ左ノ區分ニ據リ送納スルモノトス

第一項 雇工錢沒收金不用物品買却代違約金等ハ納付証書ヲ添へ每一ヶ月分ヲ翌月十日迄ニ各所ヲ發シ縣廳へ納付スルモノトス

第二項 罰俸金賠償金盜賊追徵金訴訟入費償却金等ハ其事由ヲ具シ時々縣廳へ納付スルモノトス

第四條ヲ第三條トシ以下漸次操上クルモノトス

○訓令第四十一號 二十一年四月十日

郡役所 戸長役場

第一部歳入内國税ニ係ル營業者不納公賣處分濟官損及不納ノ儘失踪センモノ福島縣廳ヨリ通報越ノ件

○訓令第四十二號 二十一年四月十三日

郡役所 戸長役場 縣立學校 病院

地方税會計條例左之通改正シ明治廿一年度ヨリ實施ス

地方税會計條例(二十二年訓令三十四號ヲ以各條中改正ニ付訂正ヲ加フ)

第一章 總則

第一條 會計ハ豫算ニ起リ之レニ依リ出納シ決算ニ結了ス

第二條 會計ノ年度ハ其年四月一日ニ起リ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス

第三條 收入ノ科目ヲ分テ大科目小科目トス其科目種別等ハ別ニ之レヲ定ム

第四條 支出ノ科目ヲ分テ大科目中科目小科目トス其科目ノ種別等ハ別ニ之レヲ定ム

第五條 各所ニ於テハ收入ヲ以テ直ニ支出ニ移用シ若クハ甲年度ノ收支ヲ以テ乙年度ノ收支ニ混用スルヲ得ス

第二章 收支豫算

第六條 各課ニ於テ豫算調製ノ前左ノ各項ニ係リ意見アルモノハ其意見ヲ具シ知事ノ裁

定ヲ受ケ而シテ豫算ヲ調理スヘシ

第一項 繼續ノ事業ヲ伸縮シ若クハ廢止スルモノ

第二項 新ニ事業ヲ起スモノ

第三項 甲年度豫算内ニ在テ事故アリ其年度中ニ終了スル能ハサル事業ノ經費ハ年度

末ヲ以打切其以后ニ涉ル事業ノ經費ハ乙年度ノ豫算ニ編入スルモノ

第四項 不用ニ屬スル建造物若クハ地所ノ拂下ケ貸下ケ等ヲナスモノ

第五項 新ニ稅ヲ課シ或ハ之ヲ廢シ又ハ増減スルモノ

第七條 郡廳舎建築修繕費縣立學校及病院明野<sup>〇</sup><sup>〇</sup><sup>〇</sup>農場費ノ内營繕費町村土木補助費ハ其

主管各所ニ於テ豫算調書ヲ調製シ前年度六月三十日迄ニ各所ヲ廢シ縣廳ニ送付スヘシ

第八條 各課主掌ニ係ル收支ノ豫算調書ハ其課ニ於テ之ヲ調製シ第七條ニ係ル經費ハ其

管理ノ課ニ於テ各所ヨリ差出セシ豫算調書ニ基キ之ヲ調製シ前年度七月三十一日迄ニ

第一部議事課ヘ送付スヘシ

第九條 收支豫算調書ハ各科目ニ就キ其金員事由ヲ掲載シ前々年度ノ決算額及前年度ノ

豫算額ヲ傍記シ而シテ之ニ對比シテ増減アルモノハ其事由ヲ付記シ且ツ總体ニ就キ其

増減事由ヲ説明スヘシ

第十條 第一部議事課ハ第八條ノ豫算調書ヲ審査シ其意見アルモノハ之ヲ具シ而シテ統

計豫算書ヲ調製シ其支出ノ豫算ハ前年度九月三十日其收入豫算ハ十月十五日迄ニ知事

ノ決裁ヲ受クヘシ

第十一條 收支豫算決定ノ金額ハ前年度一月中之ヲ一般ニ布令スヘシ

第十二條 第一部議事課ニ於テハ第十一條ノ令布ニ係ル内譯金額ハ前年度一月中之ヲ主

掌ノ各課ヘ通知スヘシ

但警察費監獄費郡吏員給料旅費及廳中諸費梅毒病院費ハ其主ノ各課ニ於テ豫算決定

額内ヲ以テ適宜配當ノ方法ヲ設ケ知事ノ決裁ヲ受テ前年度二月中各所ヘ訓示スヘシ

第十三條 豫算ヲ訓令シタル科目ニシテ(適宜流用スルヲ得ル科目ヲ除ク)彼此流用セント

スル片ハ事業執行ノ前其事由ヲ具シ知事ノ裁定ヲ受クヘシ若シ該費ノ支出至急ヲ要シ  
決裁ヲ缺フ能ハサル片郡役所及警察署ハ金額五拾圓以下ハ豫備金ヨリ一時換拂ヲナ  
ス可ヲ得ヘシ

但各課ノ主掌ニシテ本條ノ決裁ヲ受タル片其中科目ノ流用ニ係ルモノハ之ヲ第一部  
議事課ヘ報告スヘシ

第十四條 豫算外臨時ノ事件ニ依リ豫備費ヲ要スルコトアル片ハ其金額事由ヲ具シ知事ノ  
決裁ヲ受クヘシ

但本條ノ決裁ヲ受タル片ハ之ヲ第一部議事課ヘ報告スヘシ

第十五條 臨時ノ費用ヲ要スル片ハ其豫算書ヲ調製シ之カ事由ヲ付記シ知事ニ具申スヘ  
シ

第十六條 第一部議事課ハ第十五條ノ臨時費豫算額ノ調書ヲ審査シ其意見ヲ具シ知事ノ  
決裁ヲ受クヘシ

但臨時徴收スヘキ等ノ場合ニアリテハ更ニ其意見ヲ具シ知事ノ決裁ヲ受クヘシ

第十七條 臨時費豫算ノ金額決定スルトキハ直ニ一般ニ布令スヘシ

但第十二條但書ノ費途ニ係ル片ハ主掌ノ各課ニ於テ其配當方法等該但書ニ準據シ取  
扱フヘシ

第三章 金銭出納

第十八條 凡ソ本廳ニ於テ出納スル金銭ハ本縣會計規程ニ準據スヘシ

第十九條 本廳ノ出納ハ知事ヨリ其收支ヲ會計主務官ニ命令シ會計主務官ニ於テハ切符  
ヲ以テ其收支ヲ執行スヘシ

但恒例ノ出納ハ其時々命令ヲ要セス會計主務官ニ於テ其收支ヲ執行スルヲ得

第二十條 郡役所縣立學校病院明野勸農場ノ出納ハ各所長ヨリ其收支ヲ會計主務官ニ命  
令シ會計主務官ニ於テハ切符ヲ以テ其收支ヲ執行スヘシ  
(二十二年訓令三十四號ヲ以テ文中圓点ノ文字挿入)

第二十一條 凡ソ各課ニ於テ金銭ノ支拂ヲ要スルトキハ主任者ニ於テ受取人ノ請求書ヲ

調査ノ之ニ認印シ其課長ノ檢印ヲ得テ之ヲ第一部議事課ヘ送付シ仕拂方ヲ請求スヘシ  
尤モ請求書ヲ要セサルモノハ主任者ノ仕譯書ヲ以テ代用スルコトヲ得

第二十二條 地方税ノ徴收及送納ノ順序ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三條 地方税雜收入取扱ノ順序ハ別ニ之ヲ定ム

第二十四條 地方税雜收入納付ノ報告ヲ受タルトキハ第一部議事課ハ更ニ之ヲ主掌ノ各課ヘ報告スヘシ

第二十五條 本廳ニ於テ取扱ノ諸經費戻入金ハ雜收入收納規則ニ據リ會計主務官之ヲ納付ス

第二十六條 郡役所縣立學校病院明野勸農場ノ經費ハ豫算年額ヲ十二分シ勸業費中勸業委員長年給(勸業委員長事務取扱費ハ豫算年額ヲ年度ノ初ニ交付ス)ハ之ヲ四分シ其期ノ前月中各所ヨリ知事ヘ申請スヘシ尤多額ノ支出ヲ要スルキハ其事由ヲ具シ翌期分又ハ翌々期分ノ金員ヲ一時ニ申請スルヲ得(二十二年訓令三十四號ヲ(本條改正ノ文)(條下ニ掲ク))

但警察費監獄費ハ其豫算年額ヲ十二分シ其期ノ前月之ヲ交付スヘシ

第二十七條 郡廳舎建築修繕費(郡役所限リ施行スル分ハ其豫算年額)土木費ノ内委任ニ係ル諸費町村土木補助費勸業費ノ内勸業委員長旅費ハ實際支出スヘキ時ニ臨ミ其要スヘキ金員ヲ各所ヨリ知事ニ申請スヘシ(本條改正ノ文)(條下ニ掲ク)

但警察廳舎建築修繕費ノ内警察署ニ係ルモノ及縣監獄建築修繕費ハ實際支出ノ時ニ臨ミ其要スヘキ金員ヲ交付スヘシ

第二十八條 郡役所縣立學校病院明野勸農場ニ於テハ一ヶ月毎ニ出納スル所ノ金員科目及事由ノ摘記シタル收支現計書及報告書ヲ調製シ翌月廿日迄ニ各所ヲ發シ縣廳ヘ送付スヘシ(二十二年訓令三十四號ヲ以文中圈点ノ文字挿入)

但郡役所縣立學校病院明野勸農場ノ諸經費ハ每一ヶ月分内譯明細帳ヲ調製シ之ニ領收証書及内譯アルモノハ其仕譯書ヲ添付シ翌月二十日迄ニ各所ヲ發シ縣廳ヘ送達シ郡廳舎建築修繕費ハ一事業竣成毎ニ内譯明細帳ヲ調製シ送達スヘシ警察費警察廳舎

建築修繕費縣監獄建築修繕費ハ主管ノ課ニ於テ内譯明細帳ヲ調製シ翌月廿日迄ニ（  
建築修繕ハ一事業竣成毎ニ警察費ハ翌々月中）第一部議事課ヘ送付スヘシ（  
二十四號ヲ以テ圖點挿入）  
訓令第三

第二十九條 出納ハ會計年度經過ノ後三ヶ月ヲ限リ之ヲ閉鎖ス

但閉鎖后ト雖モ第一部議事課ニ於テ決算調理上ヨリ出納ヲナスハ此限リニアラス

第三十條 各課各所ニ於テ出納閉鎖期迄ニ若シ收支ノ決算結了セサルモノアルハ其事  
由ヲ具シ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十一條 第二十五條第廿六條ニ掲クル經費決算上殘餘金アルトキハ該年度出納閉鎖  
期迄ニ縣廳ヘ還納スヘシ

第三十二條 各課各所ニ於テ土木管轄ノ事業事故アリ其年度内竣功セサルハ該年度内  
ニ其事由ヲ具シ知事ノ決裁ヲ受ケ年度后出納閉鎖期迄其豫算金額ヲ使用スル事ヲ得  
但戶長役場ニ係ル金穀物品ノ出納財産管理ノ實況檢査ノ爲メ郡役所ニ於テハ一ヶ年

度中少ナクモ一回以上郡吏ヲ各役場ヘ派遣シ之カ檢査ヲナスヘシ（  
二十三年訓令卅  
三號ヲ以テ削除）

第三十四條 金銭出納ノ記簿ハ日記簿原簿現金受拂簿ヲ設備シ總テ之ニ記入スヘシ

第三十五條 記簿ハ金銭ヲ出納スヘキ証書ニ依リ之カ記入ヲナスヘシ

第三十六條 日記簿原簿現金受拂簿ヲ取捨シ及其様式ヲ變更シ若クハ補助簿ヲ設ケント  
スルハ知事ノ決裁ヲ受クヘシ

第三十七條 郡役所警察署ノ豫備金及監獄ノ工業元仕入金病院ノ藥品購入金ハ會計年度  
毎ニ返納受ノ順序ヲ爲スヘシ（  
二十三年訓令第三十三號  
ヲ以テ條中、點ノ分削ル）

第三十八條 各課各所ニ於テ繰替ヲナシタル金員ハ每一ヶ月分ヲ翌月中必ス戻シ入ル者  
トス若シ戻入レカタク場合ニ於テハ其事由ヲ具シ知事ノ決裁ヲ受クヘシ

第三十九條 各所ニ於テハ豫備金ノ外他ノ金員ヲ以テ操替ヲナスコトヲ得ス

第四章 收支決算

第四十條 郡役所戶長役場縣立學校病院野勤農場ノ諸經費及勸業委員長費土木費ノ内

委任ニ係ル諸費町村土木補助費郡廳舎建築修繕費ハ決算帳ヲ調製シ翌年度七月十五日迄ニ各所ヲ發シ縣廳ヘ送達スヘシ  
(二十二年訓令三十四號ヲ)  
(二十三年訓令第三十三號)  
(以文中圈点ノ文字挿入)  
(以テ……点ノ分ヲ削ル)  
 但警察費監獄費警察廳舎建築修繕費縣監獄建築修繕費ハ主掌ノ各課ニ於テ調製シ七月十五日迄ニ第一都廳事課ニ送付スルモノトス

第四十一條 各課主掌ニ係ル地方稅收支決算結了スルキハ名科目ニ就キ其豫算額ニ對比シ之カ増減ノ理由ヲ説明セシ書面ヲ作り翌年度七月三十一日迄ニ第一都廳事課ヘ送付スヘシ

但郡役所戸長役場ニ係ルモノハ郡役所縣立學校病院明野勸農場ニ係ルモノハ各所ニ於テ本文ノ書面ヲ付シ翌年度七月二十日迄ニ其地ヲ發シ縣廳ヘ送達スヘシ

第四十二條 第一都廳事課ハ地方稅收支決算統計書ヲ調製シ翌年度九月三十日迄ニ知事ノ裁定ヲ受クヘシ

第四十三條 第四十條ノ決算檢査ヲ了スルトキハ各所ニ對シ其決算濟ノ認可狀ヲ交付ス

第五章 雜則

第四十四條 凡ソ地方稅ノ經濟ニ係ル財產ハ其主掌ノ各課各所ニ於テ毎年三月卅一日ノ現在ニヨリ其數量價額ヲ調査シ其種類ヲ區分シタル計算表ヲ調製シ翌月中知事ニ申報スヘシ  
(本條改正ノ文)  
條下ニ掲ク

第四十五條 郡役所警察署監獄縣立學校病院明野勸農場ノ金銀物品出納細則ハ知事ノ決裁ヲ受クヘシ  
(二十二年訓令三十四號ヲ)  
(以文中圈点ノ文字挿入)

但裁定ノ後其細則ヲ變更シ若クハ増補セントスル片ハ其事由ヲ具シ知事ノ決裁ヲ受クヘシ

第二十六條 郡役所警察監獄縣立學校病院明野勸農場ノ經費ハ豫算年額ヲ十二分シ其期ノ前月之ヲ交付スヘシ

第二十七條 郡廳舎建築修繕費(郡役所限施行スル分ハ其豫算年額ヲ)警察廳舎建築修繕費(二分シ其期ノ前日之ヲ交付スヘシ)



費ノ内警察署ニ係ル者及縣監獄建築修繕費土木費ノ内委任ニ係ル諸費町村土木補助費ハ實際支出スヘキ時ニ臨ミ其ノ要スヘキ金員ヲ各所ヨリ知事ニ申請スヘシ

第四十四條 地方税經濟ニ係ル土地建物ハ本年四月一日現在ニ依リ其ノ主宰ノ各課各所ニ於テ其數量價格ヲ調査シ其ノ種類ヲ區分シタル計表ヲ調製シ同月中知事ニ申報シ其ノ後増減ニ係ルモノ每一ケ年分取纏メ同四月十五日限申報スヘシ(二十三年訓令第三十三號ヲ以改正)

○訓令第四十三號 廿一年四月十七日

郡役所 戸長役場

十九年(十一月)訓令第百八十五號内國税ニ係ル營業者税金不納ノ儘失踪レタルモノ、内歸籍處分ノ上官損ニ歸セシ分滋賀縣ヨリ通報ノ件

○訓令第四十四號 廿一年四月十七日

郡役所 戸長役場

十七年(七月)乙第百七十五號十九年(十月)訓令第五十六號及同年(十一月)訓令第百八十五號内國税ニ係ル營業者税金不納ノ儘失踪レタルモノ、内歸籍追徵濟又ハ處分濟官損ニ歸セシモノ等所轄縣廳ヨリ通報越候ニ付左記ノ人名ヲ削除ス(左記客ス)

○訓令第四十五號 廿一年四月十七日

沿海町村浦役場

東京日本橋區室町三丁目七番地商木村源七客月廿七日横濱出帆ノ廣島丸ニ乗組四日市へ航海中遠州灘ニ於テ水没候ニ就テハ死体自然沿海地方へ漂着候ハ、其旨申出ヘキノ件

○訓令第四十六號 二十一年四月二十日

郡役所

自今毎月別紙様式ニ據リ郡書記雇員ノ人員表ヲ翌月十日限リ差出スヘシ

但明治十四年十二月二十八日付庶第五百九十八號達御用掛雇進退表及明治十五年七月

乙第百四十六號達郡吏員俸表ハ廢止ス

沿海町村浦役場

○訓令第四十七號 二十一年四月廿日

行衛不明人ノ義ニ付愛知縣ヨリ通知ノ件

○訓令第四十八號 二十一年四月二十四日

郡役所 戸長役場

本年徴兵戸籍照較日割別表ノ通り施行セシメ候條左ノ手續ニ據リ照查ヲ受クヘシ(期限経過ニ付別表略ス)

但壯丁名簿并届書類ハ進達目録寫ヲ添ヘ直ニ出張官ヘ差出スヘ  
 一照較ノ時ハ兵事擔任ノ郡吏一名立會セシムヘ  
 一郡長ハ別表日割ニ部内町村ヲ適宜分付シ毎日午前八時迄ニ戸長ヘ出頭ヲ命スヘ  
 長ハ指定ノ日時ニ新舊戸籍及ヒ登記簿除籍簿入籍報知書等ヲ携帶出頭スヘ  
 一郡長ハ本年徴兵ニ當ル國民兵異動届ハ留置キ出張官ヘ差出スヘ  
 一郡長ハ戸籍照較後身上異動届出ルトキハ直ニ出張官ヘ送付スヘ  
 ○訓令第四十九號 二十一年四月廿四日 警察署分署  
 明治十九年乙第四十四號達巡查配置人員別紙ノ通改正ス  
 但從前ノ令達本文抵觸ノモノハ總テ廢止ス

(別紙)

署名	巡查定員
桑名警察署	三十四人

南大社警察署	二十一人
四日市警察署	四十人
四日市警察署 菟野分署	十人
關警察署	二十九人
神戸警察署	十九人
津警察署	五十人
津警察署 一身田分署	十四人
久居警察署	三十六人
松坂警察署	三十一人
松坂警察署 七日市分署	五人
相可警察署	二十八人
山田警察署	五十三人

山田	神前分署	四	人
鳥羽	警察署	十	五
鳥羽	波切分署	六	人
尾鷲	警察署	十	六
木本	警察署	十	八
上野	警察署	二	十
上野	警察署	九	人
上野	平田分署	五	人
名張	警察署	十	五
名張	阿保分署	六	人

○訓令第五十號 二十一年四月廿四日

沿海町村浦役場

行衛不明人ニ對シテ付愛知縣ヨリ通知ノ件

○訓令第五十一號 二十一年四月二十七日

伊賀全國 郡役所 戸長役場

二十年九月本縣訓令第千二百一號馬匹調査徵發並取扱手續左之通改正ス

馬匹調査徵發並取扱手續 (二十二年訓令四十八號ヲ以本手續中鎮臺司令官トアルヲ師團長ニ戶長トアルヲ町村長ト改ム)

馬匹ノ調査

第一條 町村長ハ本年一月本縣訓令第八號ニ據リ毎年二月一日其所轄内ニ現在スル馬匹

ヲ取調ヘタル合格馬匹ニ就キ附録第一號ノ馬匹名簿ヲ製シ備ヘ置クヘシ

第二條 毎年三月初毎年三月中旬ニ於テ縣内馬匹ノ員數ニ據リ出師ニ當リ徵發スヘキ員數

ヲ鎮臺司令官ノ通牒ニヨリ各郡ニ分割シテ郡長ニ達ス郡長ハ又之ヲ各町村ニ分割シテ

町村長ニ達スヘシ (二十二年訓令四十八號改正ノ文)

第三條 戸長ハ郡長ノ達ニ據リ備ヘ置ク所ノ名簿ニ據リ徵發スヘキ馬匹ヲ定メ其町村名

及員數ヲ三月盡日四月十日迄ニ郡長ニ報告シ郡長ハ之ヲ縣廳ニ報告スヘシ (全上)

第四條 町村長ハ前條ニ據リ徵發スヘキ馬匹ヲ定メタルトキハ其出師年度内ニ於テ馬匹

徵發ノ令アレハ直ニ之ニ應スヘキ旨ヲ各馬主ニ諭示シ能ク其旨趣ヲ會得シ置カンムヘ

但シ馬主又ハ馬匹ニ異動ヲ生スル片ハ直ニ他ノ者ヲ以テ之ヲ填補シ若シ所轄内ニ於テ填補スヘキモノ無之片ハ直ニ其旨ヲ郡長ニ報告スヘシ郡長ハ之ヲ他ノ町村長ヘ割當填補セシムヘシ若シ所轄内ニ填補セシムヘキモノ無之片ハ直ニ其旨ヲ縣廳ニ報告スヘシ

馬匹ノ徵發

第五條 馬匹徵發ハ鎮守司令官ノ通牒ニ依リ郡長ニ達ス郡長ハ之ヲ町村長ニ達スヘシ其徵發ノ法ハ概テ徵發令同事務條例ニ據ル

第六條 町村長ハ郡長ノ達ニ據リ其町村内ニ於テ兼テ指定シ置ク所ノ馬主ニ命シテ馬匹及輓具車輛鞍屬具ト共ニ附録第二號ノ馬主馬匹名簿ヲ添ヘ馬匹差出所ニ率行セシムヘシ

第七條 馬匹率行ヲ命シタル馬主ハ其命令ヲ受ケタル片ヨリ十二時以内ニ出發シ一日八

里詰(八里ヲ以テ最少限トス)ヲ以テ馬匹差出所ニ率行スヘシ

第八條 馬匹差出所ハ大坂城南煉兵場トス

但シ臨時演習等ノ節ハ其都度指定ノ場所

第九條 馬匹差出所ヘ率行ノ者ニハ左ノ日當ヲ支給ス

但シ金額ハ郡役所ニ於テ取極メ縣廳ニ請求スヘシ

第一項 馬匹率行ノ節往路ハ一日八里詰歸路ハ一日十里詰ヲ以テ日當金拾四錢ヲ支給ス以上ノ端里數往路ハ四里以上飯路ハ五里以上ニ及フトキハ日當ノ半額ヲ増給ス但飯路若シ馬匹率行スルコトアル片ハ總テ往路ニ準ス

第二項 近傍往返八里未滿ハ日當ヲ給セス八里以上十里未滿ハ日當ノ半額十里以上十六里未滿ハ日當一日分ヲ支給ス

第三項 借上馬匹受取ノ爲メ出場スルトキ往路一日十里詰飯路一日八里詰ヲ以テ前二項ニ據リ日當ヲ支給ス

第四項 馬匹ハ片道九里未滿ハ日當ヲ給セス九里ニ及フ片ハ日當金拾五錢ヲ支給ス以上ノ里數ハ八里毎ニ日當一日分ヲ支給ス

但シ官ノ都合ニ據リ(指定ノ場所ヘ率行ノ上)不用トナリタルトキハ往返十里以上十八里未滿ハ一日分ノ日當ヲ支給ス

第五項 官ノ都合ニヨリ滞在ヲ命スルトキハ人馬共第一項第四項ノ日當ヲ支給ス  
馬匹買上並借上

第十條 馬匹及諸器具屬具等ハ馬匹差出所ニ於テ檢査シ之ヲ買上借上ト區分シ買上馬匹ハ附錄第三號ノ買上証票借上馬匹ハ附錄第四號ノ借上証票ヲ馬主ニ交付セラル、者トス

第十一條 買上証票ヲ受領セシ馬主ハ之ヲ所轄戶長ニ差出シ戶長ハ所轄町村内ヲ取纏メ之ヲ郡長ニ差出シ郡長ハ所轄内取纏メ鎮台監督部宛ヲ以テ代價請求書ヲ添ヘ縣廳ニ差出スヘシ

第十二條 前條代價ヲ郡長ニ下付シタル片ハ之ヲ各戶長ニ分付シ各馬主ニ下附セシメ相當受領証ヲ徵シ所轄内取纏メ鎮台監督部宛ノ添書ヲ附シ縣廳ニ差出スヘシ

第十三條 借上馬匹ノ貸金ハ馬匹返附ノ後之ヲ下附セラル、モノトス其手續ハ第十二條ニ同

附錄第一號

馬匹名簿

町村名	種別	大坂	産所	年齢	寸尺	毛色	原價	乘鞍款	馬番	馬主姓名
何町(村)	何里	何十	地名	何才	何何	何	何何	何	何何	何

乘馬 何頭

計 轆馬 何頭

馱馬 何頭

馬匹番號ハ町村役場限リ一貫ノ番號ヲ付スヘシ

附錄第二號 料紙半紙野紙

馬主名簿

三重縣何國何郡何町村

族籍職業

何 某

何年何月

距馬匹差出所何地何里何町

馬匹名簿

產	所	年	齡	寸	尺	毛	色	原	價	乘	轆	馱	馬	名	番	號
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

右乘(轆)(馱)馬轆具車輛(馱鞍)屬具ヲ添へ何年何月何日何時馬匹差出所何地ニ向テ出發致候也

右

何 某印

戶長

何 某印

右相違無之候也

年月日

附錄第三號

買上証票

一乘(轆)(馱)馬何號 價何圓

一同 同

三重縣何國何郡何町村(村)何某所有

一轆具車輛(馱鞍)屬具 價何圓

三重縣何國何郡何町村(村)何某所有

右正ニ買上候也

年月日

受領委員長 何 某印

附録第四號

借上証票

一乘(輓)(駄)馬何號 何 頭

三重縣何國何郡何町(村)何某所有

一輓具車輛(駄鞍)屬具共

右正ニ借上使用済ハ直ニ返却スヘシ

但シ借上賃金ハ日數ニ據リテ精算シ馬匹返却ノ後之ヲ下附スヘシ

年月日

受領委員長 何 某印

○訓令第五十二號 二十一年四月二十七日

伊勢志摩全國南北牟婁郡

郡役所 警察署 全分署 戸長役場

明治二十一年出師年度(廿一年五月一日ヨリ廿二年四月卅日マテ)中ハ假令戰時若クハ事

變ニ際スルモ近衛歩工兵科ノ後備軍(兵員)ハ之ヲ近衛ニ召集セシメ鎮臺後備軍諸隊ニ

召集セラレ依テ後備軍(兵員)召集ノ一令ニテ近衛歩工兵科ノ(兵員)ハ鎮臺後備軍

召集(兵員)ト等シク召集可相成筈ニ付其取扱方ハ陸軍召集條例及本縣訓令陸軍召集條例細

務規定中後備軍(兵員)召集ノ手續ニ依ルヘシ

但本文ノ趣ハ近衛歩工兵科ノ(兵員)ハ豫メ示達シ置クヘシ

戸長役場

○訓令第五十三號 二十一年四月二十七日

他府縣ニ至リ雇人ヲラントスル者ニシテ身元証明ノ添書ヲ請求スル者アルトキハ之ヲ付

與スヘシ

郡役所 警察署 分署

○訓令第五十四號 廿一年四月三十日

時期將ニ温暖ニ向ハントスルニ付テハ衛生清潔法等夫々注意スヘキハ勿論ニ候ヘ共萬一  
衛生清潔法ノ怠リヨリコレヲ病ノ誘因トナリ一昨年ノ如キ慘狀ヲ來シ候様ニテハ實ニ容

易ナラサル義ニ有之然ルニ東京府下ニ於テハ已ニ一人ノ相似コレヲ病發生モ有之タル事ニ付今ヨリ一層注意ヲ加ヘ衛生清潔法等充分行届候様取計フヘシ

○訓令第五十五號 廿一年四月三十日 伊賀國ヲ除ク 郡役所 警察署

分署 戸長役場

來ル廿一年出師年度廿一年五月一日ヨリニ於テハ第二充員召集ノ調査ヲ爲サス依テ全年度中ニ限リ充員召集ハ第壹充員召集ノミト心得ヘシ

○訓令第五十六號 廿一年四月三十日 郡役所 戸長役場

北海道石狩國空知郡市來知幌内ニテ村戸長役場客月廿八日背類共悉皆焼失ニ付同日以前照會回答未了ノ事件ハ更ニ通知又ハ照會有之度旨同應ヨリ申來候ニ付夫々取計フヘシ

○訓令第五十七號 廿一年五月一日 郡役所

租税ニ關スル諸表中自今左ノ通廢止ス

一菓子營業人員調査表

一煙草仕入出賣印紙買入鑑札渡高表

一菓子仕入出賣鑑札渡高表

一印紙受捌高表

一免稅松車表

一地租及地租割公儲金不納公賣處分期限内賣却シ能ハサル報告

○訓令第五十八號 廿一年五月四日

各郡役所 縣立學校 公立學校 小學簡易科授業所

自今學校生徒ノ禮式ハ左記心得ニ據リ履行スヘシ

學校生徒禮式心得

一尊長ニ對スルトキハ直立シテ姿勢ヲ正シクシ手ヲ垂レ眼ヲ敬禮スヘキ人ニ注キ以テ体ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ

帽ヲ冠スルトキハ右手ニテ帽ヲ脱シ其裏面ヲ外ニ見ハサル様ニシテ左手ト共ニ垂ル



ヘシ其他前ニ同シ

但シ女子ハ帽ヲ脱スルヲ要セス

行進中ニ在リテハ先ツ歩ヲ止メ前ノ如ク敬禮スヘシ

一同輩ニ對スルトキハ頭ヲ少シク前ニ傾クヘシ

帽ヲ冠スルトキハ帽ヲ脱スルニ止ムヘシ

但シ女子ハ常ヲ冠シタル儘頭ヲ小シク前ニ傾クヘシ

行進中ニ在リテハ行進シナカラ前ノ如ク敬禮スヘシ

○訓令第五十九號 廿一年五月四日

郡役所

本年農商務省第廿號訓令有之ニ付別紙書式ノ通自今毎年郡内町村勤勉貯蓄組合ノ現況ヲ調査シ翌年一月三十一日限リ當廳ヘ進達スヘシ但シ昨年分ハ本年五月三十一日限リ進達スヘシ

(別紙)

明治 年々末現在 郡貯金表(式)

郡名	貯金總高	組合數	組合町村數

凡例

一物品ヲ貯蓄スルモノハ金圓ニ換算スヘシ

一勤勉貯蓄組合ヲ設ケサル町村アラハ之ヲ設ケサル事由及其町村數ヲ表末ニ附記スヘシ

一勤勉貯蓄組合ヲ設ケサルモ之ト同一ノ目的ヲ以テ報徳社等ノ設ケアルモノハ本表式ニ

準シ別ニ之ヲ調製進達スヘシ

○訓令第六十號 二十一年五月四日

郡役所

車所有者心得方規則相定メ候ニ付テハ自今左ノ各項ニ據リ區々相成ラサル様取扱フヘシ

車税規則取扱心得

第一項 凡ソ車類ノ檢印番號及銘印ハ其營業ト自用トヲ問ハス左ノ區別ニ從ヒ之ヲ烙記スヘシ

一馬車ハ馭者臺適宜ノ箇所ニ烙記スヘシ

但馭者臺ヲ付セサルモノハ乘臺ノ内部適宜ノ箇所ニ烙記スヘシ

一人力車ハ檢印ヲ乘臺ノ内部ニ銘印ハ其挽手ニ番號ハ其乘臺ノ箱中適宜ノ箇所ニ烙記スヘシ

一牛車荷積馬車及ヒ荷積車ハ其架臺右方親木ノ外側ニ烙記スヘシ

第二項 車ノ番號ハ税則第一則ノ各額ニ從ヒ第一號ヨリ逐次之ヲ記號スヘシ

但人力車ニ限リ自用車ノ番號ト營業者ノ鑑札番號ト重複ヲ避クル爲メ車籍臺帳上其自用ト營業トヲ區別シ且番號ハ都テ活字印ヲ以テ價ニ烙記シ其廢車等ニ係ル舊番號

ハ之ヲ缺號トナスヘシ

第三項 耕作一途用車并ニ車所有者心得方規則(以下單ニ心得方規則ト記ス)第五條ノ車類ハ其用途ヲ檢定シ免稅ノ取扱ヲ爲スヘシ

但免稅ノ証トシテ第壹項ノ區別ニ從ヒ其車体ニ免稅印ヲ烙記スヘシ

第四項 心得方規則第六條ノ車類ハ免稅印ヲ烙記スルノ限ニアラス

第五項 心得方規則第九條第十條ニ該當シ税金ニ増差ヲ生シタル車ハ該期ヨリ其増差ニ係ル金額ヲ徵收スヘシ

第六項 心得方規則第十三條第二項ノ届書ヲ受ケタルトキハ之ヲ車籍臺帳ニ登記シ速ニ其旨ヲ賣渡人若クハ讓渡人ノ郡役所ニ報道スヘシ

○訓令第六十一號 廿一年五月四日

郡役所

訓令第六十號車税規則取扱心得書中ノ諸烙印ハ需用ノ員數ヲ見積リ收稅長ニ請求スヘシ但免稅印ハ從前ノモノヲ襲用スヘシ

○訓令第六十二號 二十一年五月四日

郡役所

明治十九年(四月)乙第六十二號報告書并請求書々式及進達期限表ノ内第一第二項ヲ削除シ左ノ一項ニ改ム

種目	成規條項書式	進達期限
歳入報告書	出納規則 第六十六條 取扱 第四十一條 順序 第四十八條	大藏省令第二條 其月分翌月五日限
	改正書式ニ依ル	

○訓令第六十三號 二十一年五月四日

郡役所

客年(二月)三重縣訓令第二百二十四號第壹號表ニ係ル地方税賦課個數豫算報告表ノ凡例中未項ノ但書ヲ削除シ左ノ數項ヲ追加ス

一本表ノ「現在及假定賦課個數」及「豫算」ノ二欄内ヘ記載スヘキモノハ左ノ例ニ照シテ掲クヘシ

戸數割ハ戸數ヲ掲ケ營業稅雜種稅ノ内年稅ニ係ルモノハ人員若クハ戸數其他物件ノ員數ヲ掲ケ月稅ニ係ルモノハ月數ヲ日稅ニ係ルモノハ日數ヲ掲ケ市場稅ハ賣上金ヲ屠畜稅ハ頭數ヲ烟火稅ハ回數ヲ掲ケ

但日稅ニ係ル者ハ日數ノ肩ニ於テ其日數ニ相當スル稅金ヲ掲ケ「前々年度賦課個數」ノ欄内モ之レニ準ス

- 一本表ノ員數ニ係ルモノハ總テ日本數字ヲ用ヒ其傍ニ物數ノ名稱ヲ附記スヘシ
- 一各小科目ノ下ヘハ各種類別ノ金額人員戸數其他ノ個數ヲ合計シテ各欄内ヘ掲クヘシ
- 一本表ノ欄内ヘ記載スヘキモノナキトキハ斜線ヲ施スヘシ
- 一科目以下ノ標目ハ每紙ノ裏面右方ニ必ス之ヲ附記スヘシ

○訓令第六十四號 二十一年五月四日

郡役所 戶長役場

明治十八年(十月)乙第五百五十二號達自今相廢ス

○訓令第六十五號 廿一年五月十一日 郡役所 戶長役場 縣立學校 病院

明治十九年(十二月)訓令第三百十七號俸給支給規則第二條ニ左ノ但書ヲ追加シ明治二十一年度ヨリ施行ス

第二條

但日給ノモノ増給減給ハ發令ノ翌日ヨリ計算支給ス

郡役所 戶長役場

○訓令第六十六號 二十一年五月十一日  
郡役所地租臺帳地券臺帳并戶長役場土地臺帳名寄帳等訂正方整理完全ナラシムル爲メ收稅部主任ヲシテ春秋兩期ニ巡視監督センメ候條該帳簿訂正方遺漏ナカラシメ巡視ノ時々查閱ヲ受クヘシ

伊賀全國 郡役所 戶長役場

○訓令第六十七號 二十一年五月十五日  
二十一年度第一次ノ調査ニ限リ第二充員召集ニ際シ步兵第九聯隊豫備役兵ハ當縣下ヨリ召集無之特ニ步兵上等兵ノ召集可相成候條充員名簿上符號ヲ付シ發令ニ際シ不都合無之様明瞭ナラシムヘシ

○訓令第六十八號 二十一年五月十八日

沿海町村浦役場

別記人相書ノ者共客年十二月十一日愛知縣下熱田港出帆ノ後行衛不明ノ趣通知有之候ニ付心當ノ者有之候ハ其旨速ニ當廳ヘ届出ヘシ (別記零ス)

○訓令第六十九號 二十一年五月十八日

郡役所 戶長役場

三等郵便局長ノ採用ニ關シ遞信管理局長ヨリ直接ニ照會又ハ依托有之節ハ其照會又ハ依托ニ應リ便宜之ヲ措辨スヘシ

○訓令第七十號 二十一年五月廿二日

郡役所

租稅不納者處分規則ニ據リ處分ノ未官損ニ販スルモノハ二十一年度以降稟申ニ不及該金額ハ本年(三月)大藏省訓令第十二號徵稅額訂正表ヲ以テ減額報告ヲ爲スヘシ  
但他ノ事故訂正表ト區別シテ調整スヘシ

○訓令第七十一號 二十一年五月廿二日

郡役所 戶長役場 縣立學校 病院

本年(三月)訓令第二十八號地方稅科目雜收入中地方稅不納官沒地拂下代ノ次ハ盜難賠償



○訓令第七十八號 二十一年六月八日

郡役所 戶長役場 縣立學校 病院

本年(三月)訓令第二十八號地方稅科目雜收入中郡吏員給料及廳中旅費雜入ノ次へ教育費雜入ノ目ヲ追加ス

○訓令第七十九號 二十一年六月十九日

郡役所 縣立學校 病院

明治十六年(十一月)乙第百八十四號達地方稅豫算調製書式警察費豫算內詳細雜末尾へ左記ノ例ヲ追加シ說明書式左ノ通改正ス

〔本年度ノ豫算額ニシテ前々年度ノ決算額又ハ前年度ノ豫算額ニ比シ増減アルモノ若クハ新ニ科目ヲ設ケ又ハ從來ノ科目ヲ廢スルモノ等ハ左記ノ例ニ照シ毎項其事由ヲ詳細朱書スヘシ〕

△印ハ朱書

○増減ノ例 (此例ハ概テ細節ニ適用ス小中科目限リノモノハ其小中科目ニ適用ス)

△前々年度決算金何程

△前年度豫算金何程

金何程

何費

但何々

△決算額(又ハ豫算額)ニ比シ金何圓ヲ増(又ハ減)シタルハ何々ノ事由ニ依リ何々ヲ増(又ハ減)シタルニヨル

△但答テ知事ノ裁定ヲ受ケタルモノハ併テ其事由ヲ附記スヘシ

○新ニ科目ヲ設ケシ例 (同前)

△前々年度決算金無之(又ハ金何程)

△前年度豫算金無之

金何程

何費

但何々

△此科目ヲ設ケシハ何々ノ發令ニヨリ將來地方稅支辨トナリタルニヨル又ハ日々ノ事由ニヨリ之ヲ要シ或ハ何々ノ事由ニヨリ一旦之ヲ廢セシモ何々ノ事由ニヨ

リ再ヒ之ヲ要スルニ至ル

△但同前

○科目ヲ廢セシ例 (前同)

△前々年度決算金何程

△前年度豫算金何程

△金無之

△何費

△此科目ヲ廢セシハ何々ノ發令又ハ何々ノ事由ニヨリ自今此費用ヲ要セサル

ニ至ル

△但同前

(以下ノ豫算内譯明細簿皆之ニ準ス)

(説明書式)

明治何年度何費豫算説明

此豫算ノ金額ヲ以テ前年度豫算ノ金額ニ比スレハ金何圓ヲ増加(又ハ減少)セリ其事由  
左ノ如シ

一何費ニ於テハ何々ノ事由ニ依リ (可成詳細説明) 金何圓ヲ増加(又ハ)減少セリ  
スルヲ要ス

一何々ニ於テハ何々ノ事由ニ依リ何費ニ於テ金若干ヲ減少セリト雖モ何々ノ事由ニヨ

リ何費ニ於テ更ニ金何圓ヲ増シタルヲ以テ本項ニ於テ差引金何圓ヲ増加セリ

(中科目毎ニ右ニ倣ヒ増減ノ事由ヲ記載スヘシ)  
(中科目ナキモノハ大科目ニ就キ説明スヘシ)

○訓令第八十號 二十一年六月二十三日

郡役所 戸長役場

陸軍參謀本部ニ於テ測量中測線見通ノ爲メ樹木ヲ伐透ス節官有地ノ分ハ郡役所等へ商議  
スヘキ旨十七年二月第二十七號ヲ以テ告示致置候處沿道官有地ノ樹木へ規標ヲ附設ハ枝  
葉ヲ伐除スル等自今該局出張員ニ於テ直チニ取計候筈ニ付此旨相心得可シ

○訓令第八十一號 二十一年六月二十六日

伊賀全國 郡役所 戸長役場

本年(六月)三重縣訓令第七十七號名張徴兵検査日割左ノ通改正シ尙備考中六月二十九日





豫備兵豫備軍驅員兵員并歸休兵諸願届書ハ自今戶長役場郡役所ヲ經テ監視區長ヘ差出サ  
シムヘシ

但明治十七年(三月)乙第五十八號同十八年(十二月)乙第百九十一號達ハ廢止ス

○訓令第八十四號 二十一年七月三日

郡役所

登記料及手数料ハ証券印紙ヲ以テ代納スヘキニ就テハ爾後登記所ニ於テ差支無之以上ハ  
証券印紙買捌人ニ限リ登記所扣所ニ出張シ其需要ノ印紙ヲ買捌カシムルコトヲ得

○訓令第八十五號 二十一年七月三日

郡役所 戶長役場

明治十八年(四月)乙第四十七號達自今廢止ス

(參看)十八年乙第四十七號達ハ(度會郡山田宮後町福地後一ナル者學校助手等ニ採用ス  
可カラサルノ件)ナリ

○訓令第八十六號 二十一年七月三日

伊賀全國及南北牟婁郡ヲ除ク 郡役所

町村地圖調製ニ付民有ノ山林原野等ニテ官林ニ接續スル境界線路ノ標杭建設ノ上ハ三重

大林區署員ニ於テ一應見分爲致度旨該署ヨリ照會ノ旨モ有之候間官林所在ノ町村ニ於テ  
右境界ノ標杭建設候ハ、其所屬小林區署又ハ派出所ヘ其旨直ニ届出サシムヘシ

但耕宅地道路堤塘溝渠河川池沼等ニ接續シ境界明瞭ナル個所及壹町步未滿ノ官林ニ接

續スルモノハ本文届出ノ限ニアラス

○訓令第八十七號 二十一年七月三日

郡役所

十九年(十月)大藏省訓令第四十九號及全年(一月)本縣乙第一五號同年(四月)本縣乙第六  
十二號同年(九月)本縣乙第一二七號達二十年(八月)本縣訓令第七十二號ニ據リ所製ス  
ル諸書表類料紙ノ義自今厚質美濃紙(便宜摺砂引ヲ用フルモ妨ケナシ)ヲ使用スヘシ  
但西洋紙ヘ印刷セシ殘餘ノ分ハ便宜使用スルモ差支ナシ

(參看)大藏省訓令第四十九號歲入報告書徵稅額(徵收額)(下戻額)訂正表

本縣乙第一五號、歲入豫算表、歲入豫算明細表、歲入豫算増減報告書

本縣乙第六二號、歲入報告書、會計年度内徵収未濟報告書、出納閉鎖前不納報告書、歲入

下戻計算書

本縣第一二七號、既往年度未納殘高仕譯書

本縣訓令第七十二號、租稅收納報告表租稅收納既未濟報告表

○訓令第八十八號 二十一年七月六日

郡役所 戸長役場

本月十一日ヨリ九月十日マテ諸官員暑中休暇ヲ賜リ候條各員申合御用差支無之様休暇可致尤賜暇中旅行ノ善モ被差許候間其行先届出ヘシ

○訓令第八十九號 二十一年七月二十四日 伊勢志摩全國南北牟婁郡 郡役所

明治二十一年徵兵抽籤來ル十月十一日施行ス

但本文ノ趣抽籤總代人ニ通達スヘシ

○訓令第九十號 二十一年七月廿七日 郡役所 戸長役場 縣立學校病院 浦役場

地方稅給與規則第三章第十三條戸長ノ上ニ「縣立學校職員及」ノ七字ヲ追加ス

(參看)明治二十年三月訓令第三百廿七號 地方稅給與規則

第十三條 戸長在職中死去ノモノハ現月俸三ヶ月分給ス

○訓令第九十一號 二十一年七月卅一日 伊賀全國 郡役所

明治二十一年徵兵抽籤來ル九月二日施行ス

但本文ノ趣抽籤總代人ニ通達スヘシ

○訓令第九十二號 二十一年八月三日 郡役所 戸長役場

明治二十年(六月)訓令第七百二十五號國庫費証書調理順序中旅費ノ部徵兵旅費仕譯書式左之通改正ス

徵兵檢査旅費仕譯書

檢丁何某外何名(抽籤人何某)代理

一金 何 程 何郡長 氏 名 印

此 譯

發	日	發	地	檢	往	滯	車	計	金	氏	名
歸	月	發	地	査	返	在	駕	金	氏		
			(抽籤場)	所	里	日	負				
				員	程	數	何				
				金	員	員	々				

何月何日	何郡	何村	何地	金何程里	金何程日		金何程	何	某
同	同	同	同	同	同		金、	、	何某保護人
何月何日	同	何村	同	金何程里		何賃	金、	、	何某父(何々)
同	同	同	同	同		金、	、	、	、

但何某以下何名何月何日何々ニ付何地滞在

一 徵兵旅費定則第六條ノ場合ニ於テハ戸長ノ証明書ヲ添ヘ付スヘシ

徵兵入營旅費仕譯書

入營者何某外何名代理

一金何程

何郡長 氏 名 印

此譯

發月日	發地	入營地	往里程	滞在日數	車駕賃	計	金氏	名
何月何日	何郡	何村	金何程里	金何程日	(何々)	金何程	何	某

同	同	同	同	同		金、	、	、
何月何日	何郡	何村	同	金何程里		金何程	金、	、

但何月何日何所へ入營何某以下何名ハ何月何日何々ニ付何地ニ滞在

一 徵兵検査又ハ新兵入營ノ節飛航若クハ汽車等ノ實費ヲ要セントキハ其正當領收証書當

領收証書ヲ得カタキモノハ検査ニ付添付スヘシ

ハ戸長入營ニハ附添人ノ証明書ヲ添付スヘシ

訓令第九十三號 二十一年八月九日 沿海郡役所 沿海町村浦役場

愛知縣三河國渥美郡老津町平民農 西崎藤兵衛 卅七年十月

丈五尺四五寸位○色白キ方○鼻高キ方○齒並好シ○肉肥タル方○頭髪坊主刈○肩濃キ方

○禪白木綿六尺

右行衛不知ノ旨愛知縣ニ通知

訓令第九十四號 二十一年八月十四日

戸長役場

管内各裁判所ニ下附シタル財産差押仮差留仮處分及收益差押ノ命令書ヲ以テ財産取調ノ際其正確ヲ保スル爲メ立會ノ義人民ヨリ戸長役場ヘ願出タル節ハ該命令書ヲ檢閲シ財産取調ニ立會且調書ニ連署捺印スヘシ

○訓令第九十五號 二十一年八月十四日

郡役所 戸長役場

今般内務省訓令第十七號之趣ニ依リ明治十五年(二月)本縣乙第廿六號同十六年(五月)本縣乙第七十二號ハ廢止ス

(參看)明治十五年乙第二十六號

堤塘樹木倒木枯木等賣却代價ハ從來雜收入トシテ大藏省ヘ上納致シ來候處客年七月以后ノ拂下代金ハ其修繕費主擔ノ方ヘ收入該費ニ可充旨今般内務卿ヨリ指令有之候條此旨相違候事

(參看)明治十六年乙第七十二號

並木及道路又ハ用惡水路土居敷等ニ生スル竹木枯倒障害等ニ依リ拂下タル代金ノ義ハ

本年度以降並木植繼費ニ其他ノ竹木拂代金ハ其修繕主擔ノ方ヘ收入該費ニ可充旨内務大藏兩卿ヨリ達セラレ候條此旨相違候事

○訓令第九十六號 二十一年八月十四日

沿海町村浦役場

一小回船一艘流失之旨愛知靜岡二縣ヨリ通牒之件

○訓令第九十七號 二十一年八月十七日

伊賀全國 郡役所 警察署

本年第四師團歸休兵並豫備役兵員定時演習召集ハ近衛歸休兵及ヒ豫備役兵員ヲ合シ左ノ通施行ス

但旅費金ハ追テ下渡スヘシ

一 參集場所大阪及ヒ大津ハ各練兵場伏見ハ同地兵營内

一 參集期日十月三十日午前第八時

一 演習日數十月三十日ヨリ三週間

○訓令第九十八號 二十一年八月十七日

郡役所 戸長役場

地方税ヲ以テ支辨スル堤防立竹木官有ノモノ水防ノ爲メ伐採仕用ノ後不用ニ屬セシモノ  
ハ所屬土木區事務所ニ於テ明治十九年(十一月)本縣々令第十八號土木條例第二章第十  
八條及ヒ第十九條ニ準シ取扱フヘシ

但本文水防ノ爲メ伐採セシモノ、届書ハ所屬土木區事務所ヲ經由差出スヘシ

◎參看 明治十九年縣令第十八號

第十八條 土木費ヲ以テ支辨シタル不用ノ古材鑛物等ヲ公賣ニ附スルトキハ其旨土木區  
事務所ヨリ所屬戶長役場へ通達スヘキニ付戶長役場ニ於テハ日數十日以内其旨ヲ廣告  
シ入札三通以上ヲ取纏メ受付番號ヲ記シ土木區事務所へ差出スヘシ土木區事務所ニ於  
テハ開札調査之上之ニ意見書ヲ附シ縣廳へ送付スヘシ

但落札價格五圓以下ノモノハ土木區事務所限リ第十九條ノ順序ニ依リ其拂下ノ處分  
ヲナスヘシ

第十九條 前條ノ入札及意見書縣廳ニ於テ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其落札ノモノハ其

旨郡役所へ通知スヘキニ付郡役所ニ於テハ之ヲ戶長ニ通知シ其代金ノ收入ヲナスヘシ

但前條但書及本條共其入札代價不適當ト視認ルトキハ之ヲ取消スコアルヘシ

○訓令第九十九號 二十一年八月廿八日

各郡役所

明治十九年度以降ニ屬スル第一部歳入決算報告書様式別冊ノ通相定候條右ニ據リ調製(地租酒造稅醬油稅ヲ除ク)シ翌々年度一月三十一日限リ差出スヘシ  
但別冊ハ別ニ類フ

各郡衙決算報告書書式凡例

- 一 豫算増減表中豫算原額ト稱スルハ當初訓令スル處ノ豫算額ナリ
- 一 決算報告表及豫算増減表中ノ豫算現額ト稱スルハ豫算原額ニ對シ爾後新ニ發布セラレタル勅令若クハ法律ニ據リ増減シタル額ヲ差引シテ得タル處ノ最終豫算額ニシテ即チ決算ノ基礎トナルヘキモノナリ
- 一 決算報告表中ノ收入確定額ト稱スルハ其年度ニ於テ徵稅令書ヲ發行シタル確定ノ員額

ナリ但徴税令書ヲ發セシテ收入シタル現金モ亦之ヲ編入ス

一同表中ノ既納額ト稱スルハ收入確定額ノ内出納閉鎖期限迄ノ間ニ於テ徴收未済トナリタル員額ナリ又未納額ト稱スルハ同上期限マテノ間ニ於テ徴收未済トナリタル員額ナリ

一同表中ノ決算額ハ常ニ既納額ト符合スヘキ者トス

○訓令第百號 二十一年九月七日 郡役所 警察署 全分署 戸長役場

第三師團豫算兵來ル十一月一日ヨリ三週間定時演習召集ヲ施行セラル

但十月三十一日召集十一月二十二日解散ト心得ヘシ

○訓令第百一號 二十一年九月七日 伊勢志摩全國南北牟婁郡 郡役所 戸長役場

本年陸軍省令第十五號豫備役後備軍艦員兵員並歸休兵召集旅費支給概別被定候處第三師團ニ於テハ郵便線路圖ニ拘ラス陸軍召集例第十三様式ニ對シ曾テ調査有之候兵員召集布達到着日數表ノ里程ニ據ル旨通知有之候條右ニ據リテ算出スヘシ

○訓令第百二號 二十一年九月十四日 伊勢志摩全國南北牟婁郡 郡役所 戸長役場

第三師團卅師準備ニ要スル馬匹ハ客年(九月)三重縣訓令第千百八十三號ノ調査方法ニ由リ調査來候處本年ノ義ハ去ル十九年(十二月)陸軍省訓令甲第二號調査方法ニ依リ馬匹車輛並屬具共戸長ハ十一月一日現在數ヲ取調同月十五日限郡役所ニ差出シ郡役所ハ之ヲ一郡表ニ調整シ同月三十日迄ニ本廳ニ差出スヘシ

○訓令第百三號 二十一年九月二十一日 郡役所 戸長役場

三重縣伊勢國河曲郡三日市村七十七番屋敷  
士族峰七長男

小西茂太郎

明治二年一月生

右ハ授業生タルノ面目ニ關スル不都合ノ所爲有之奄藝河曲郡役所ニ於テ本人ハ授與シタル授業生免許狀該郡長ニ於テ覆收候條自來教員授業生等ニ從事セシムヘカラス

○訓令第百四號 二十一年九月廿五日 郡役所

ナリ但徴税令書ヲ發セシテ收入シタル現金モ亦之ヲ編入ス

一同表中ノ既納額ト稱スルハ收入確定額ノ内出納閉鎖期限迄ノ間ニ於テ徴收未済トナリタル員額ナリ又未納額ト稱スルハ同上期限マテノ間ニ於テ徴收未済トナリタル員額ナリ

一同表中ノ決算額ハ常ニ既納額ト符合スヘキ者トス

○訓令第百號 二十一年九月七日 郡役所 警察署 全分署 戸長役場

第三師團豫算兵來ル十一月一日ヨリ三週間定時演習召集ヲ施行セラル

但十月三十一日召集十二月二十二日解散ト心得ヘシ

○訓令第百一號 二十一年九月七日 伊勢志摩全國南北牟婁郡 郡役所 戸長役場

本年陸軍省令第十五號豫備役後備軍艦員兵員並歸休兵召集旅費支給概別被定候處第三師團ニ於テハ郵便線路圖ニ拘ラス陸軍召集例第十三様式ニ對シ曾テ調査有之候兵員召集布達到着日數表ノ里程ニ據ル旨通知有之候條右ニ據リテ算出スヘシ

○訓令第百二號 二十一年九月十四日 伊勢志摩全國南北牟婁郡 郡役所 戸長役場

第三師團出師準備ニ要スル馬匹ハ客年(九月)三重縣訓令第千百八十三號ノ調査方法ニ由リ調査來候處本年ノ義ハ去ル十九年(十二月)陸軍省訓令甲第二號調査方法ニ依リ馬匹車輛並屬具共戸長ハ十一月一日現在數ヲ取調同月十五日限郡役所ニ差出シ郡役所ハ之ヲ一郡表ニ調整シ同月三十日迄ニ本廳ニ差出スヘシ

○訓令第百三號 二十一年九月二十一日 郡役所 戸長役場

三重縣伊勢國河曲郡三日市村七十七番屋敷

士族降七長男

小西茂太郎

明治二年一月生

右ハ授業生タルノ面目ニ關スル不都合ノ所爲有之奄藝河曲郡役所ニ於テ本人ハ授與シタル授業生免許狀該郡長ニ於テ親收候條自來教員授業生等ニ從事セシムヘカラス

○訓令第百四號 二十一年九月廿五日 郡役所

明治二十年(二月)本縣々令第十三號土木費支辦法ニ掲ケタル第三等川以上ノ堤防ニ屬スル雜收入ノ儀ハ本年(七月)内務省訓令第十七號ノ趣モ有之候ニ付左記ノ件々ハ其都度支辦法ニ定メタル歩合ニ隨ヒ之ヲ區分シ縣納若クハ下附スヘシ

但本文處分濟報告ノ節ハ其命員ヲ區分シ差出スヘシ

一堤塘使用料

一堤防ノ竹木拂代金

一堤防ニ屬スル古材拂代金

○訓令第五百五號 二十一年十月九日

郡役所

明治二十年(二月)訓令第百廿四號地方稅賦課個數及商業工業料理屋飲食店ノ課額戶數人員報告様式へ第三號乙表ヲ追加ス

第三號乙表(料理屋飲食店モ本表ニ倣フ)

明治何年商業廢業者人員表

種目	稅額	町村名	人員
(稅區計)	計		
小計			
郡計			

凡例

一本表ハ前年度ニ於テ廢業シタルモノニシテ其區相當稅率以上ノ稅額ヲ負擔スルモノノミヲ掲クヘシ

一種目ノ欄二種以上ノ業ヲ營ムモノハ其主トセシ種目ヲ掲ク人員ハ一町村毎ニ掲クヘシ  
一小計ノ肩ニハ其稅區ノ等級ヲ掲クヘシ

○訓令第百六號 二十一年十月十二日

郡役所 戶長役場



岐阜縣下美濃國西南郡地方本年七月廿九日出水ノ際安八郡付寄村外三ヶ村及全郡東前村  
外五ヶ村戸長役場ニ備置ノ帳簿其他書類等悉皆流失候旨該縣ヨリ通知越候ニ付テハ自然  
該役場ニ對シ照會中ノ事件コレテ未タ回答ノ手續ヲ了セサル分有之候ハ、此際更ニ照會  
方取計フヘシ

○訓令第七號 二十一年十月十二日

沿海町村浦役場

別記ノ者本月二日午後三時日本郵船會社汽船越後丸尾州武豐港ヨリ横濱へ航行之際武豐  
沖合ニ於テ誤テ海中へ墜落ノ儘生死不明ニ付自然死屍漂着候ハ、其旨届出ヘシ  
(別記)

宮城縣登米郡登米村百三番地平民

越後丸水夫

猪股太吉

明治三年三月生

人相

一 顔圓ナル方

一 鼻平高キ方

一 口大方

一 丈々小

一 着衣淺黄小倉コトゾホシ横縦紀州チルシヤヲ

○訓令第八號 二十一年十月十六日

沿海町村浦役場

左記ノ者本月一日漁船ニ乗組度會郡大湊沖航海中他ノ船舶ニ衝突シ其際陥没ノ儘行方不  
分明ニ付自然死屍漂着候ハ、其旨届出ヘシ

人相書

三河國幡豆郡宮崎村

杉山彌三右衛門

三十二年

丈 五尺五寸許

顔 長キ方

色 黒キ方

頭髮 散髮

眼 少シ茶眼ニテ丸キ方

眉 濃キ方

鼻 高キ方

口

少サキ方

耳 稍長クシテ大 齒 前齒粗 鬚少シアリ

着用衣服 上着ハ單衣ニシテ茶ト紺ノ小基勢縞下着ハ紺ト淺黄ノコロシ縞ノ縞絆

○訓令第九號 二十一年十月十六日 郡役所 警察署 警察分署 戶長役場

陸海軍ニ於テ管下海陸測量ノ爲メ建設アル測量目標タル測量上實ニ重要ノモノニ有之然ルニ人民ニ於テ往々牛馬ヲ繫ギ又ハ破毀等ノ不都合ヲナスモノ有之其筋ニ於テ測量ノ便ヲ欠ク不甚趣ニ付爾后都内人民ニ於テ右等ノ所爲無之様厚ク注意致スベシ

○訓令第十號 二十一年十一月二日 警察署 分署

街路取締規則第六條第一項第三項第四項第十一項ノ免許ヲ與フルモノ、中其道敷國縣道ニ係リ使用一時ニ止ラサルモノハ許否ノ意見ヲ具シ警察本部長ヘ申出指揮ヲ受クヘシ

○訓令第十一號 二十一年十一月二日 沿海町村浦役場

流失漂着物ノ儀ニ付愛知縣ヨリ通知ノ件(啓)

○訓令第十二號 二十一年十一月五日

明治二十二年陸軍各兵科現役士官候補生及陸軍幼年學校生徒召募相成候ニ付志願ノ者ハ現役士官補充條例及本年陸軍省告示第十五號ニ依リ來ル二十二年一月十五日迄ニ志願書及身分財產等ノ証明書ヲ添ヘ本廳ヘ差出スヘシ

○訓令第十三號 二十一年十一月九日 郡役所

本年(十月)勅令第六十六號ヲ以テ登記印紙規則公布相成候ニ付テハ該印紙料二十一年度以降第二部歳入ヘ編入方今般大藏大臣ヨリノ令達ニ依リ其徵收順序左ノ通相定ム(二十年訓令五十三號ヲ以廢止ニ付左表畧ス)

○訓令第十四號 二十一年十一月十三日

島根縣出雲國能義郡廣瀬村廣田傳吉高知縣土佐國安藝郡土居村横山勇吉ニ係ル印紙賣捌方禁止ノ旨該縣ヨリ通知(啓)

○訓令第十五號 二十一年十一月十六日 郡役所 戶長役場

建物又ハ地所分裂ニ關スル登記ノ請求ハ圖面ヲ添附シ且土地又ハ沒收地等ニ係ルモノハ

其評定價格ヲ請求書ニ明記シ又登記ニ係ル用紙ハ總テ野半紙ヲ用ヒ圖面ノ、美濃紙若クハ之ト同質同形ノ白紙ニ記載候様今般安濃津始審裁判所長ヨリ通達有之候條此旨心得ヘシ

○訓令第百十六號 二十一年十一月十六日

郡役所

明治廿年二月訓令第百六十四號事務成績具申期限（毎年兩度之ヲ取調前半年分ハ其年七月五日迄後半年分ハ翌年一月五日迄ニ）トアルヲ（毎年之ヲ取調翌年一月十日迄ニ）ト改正ス

○訓令第百十七號 二十一年十一月十六日

沿海町村浦役場

左記ノ船舶愛知縣下渥美郡中山村海岸へ漂着ノ旨同縣ヨリ通知有之候條心當ノ者有之候ハ、其旨申出ツヘシ

一傳馬舩 一艘

但長一間 廣一印アリ 棹一挺 長廿八尺 巾三尺 廣一印アリ 棹一挺 無印

○訓令第百十八號 二十一年十一月十六日

郡役所 戶長役場

内國稅ニ係ル營業者不納ノ儘失踪セシモノ、内今回滋賀縣廳ヨリ本人販籍公賣處分ノ未納金追徴又ハ財産無之官損ニ販セシ分等通報越候ニ付左記ノ通更正ス（左記零ス）

○訓令第百十九號 二十一年十一月十六日

沿海町村浦役場

鑑札番號七九四號

一小回舩一艘 但長二間 舩ノ表ニ「果」ノ字ヲ記ス

右愛知縣三河國幡豆郡對朱村安井清吉所有之處客月十四日沈失之旨通知有之候條自然漂着候ハ、其旨届出ヘシ

○訓令第百二十號 二十一年十一月二十日

郡役所

本年（十月）内務省訓令第二十號内務報告例被定候ニ就テハ左記ノ事項ハ自今其例目ノ下ニ指定シタル時日内ニ取調差出ヘシ

例目

年報

表式

適用

縣廳へ到籍期日

一 町村費收支取調

十八年九月内務省

翌年度 一月三十一日

一 縣會議員選舉權ヲ有スル者

第一表

甲 第十四年十二月内務省

乙 第十六年八月本縣乙

一 河港道路橋梁等工費

第二表

第十六年八月本縣乙

七月三十一日

一 村限令高帳及總計帳

第三表

十九年十一月本縣

訓令第九十三號 二月二十八日

○訓令第二百二十一號 二十一年十一月廿日

警察署 分署

明治廿年(六月)本縣訓令第八百號人力車營業願取扱手續第四條中人力車賃錢表左之通改正ス

明治年月日 某署認可 人力車賃錢表

何地營業人力車組合取扱所之印

道路里程及時間	賃	錢
	一人乘	二人乘

第一 伊勢街道	十八丁	金二錢以內	金三錢以內
第二 伊勢別街道	十八丁	金二錢五厘以內	金三錢五厘以內
第三 右ノ外各道	十八丁	金三錢以內	金四錢以內
第四 市街 <small>接續近傍</small> 町村トモ地内線	十八丁迄	金三錢五厘以內	金五錢五厘以內
第五 六時間雇切		金三十錢以內	金四十錢以內
第六 雇切七時間以上ハ一時間ヲ加フル毎ニ		金四錢以內	金五錢以內
第七 雇切ニアラスル客待三十分以上ハ三十分ヲ加ル毎ニ		金一錢五厘以內	金一錢五厘以內
第八 通常速力ハ十八丁毎ニ平地ハ十五分時第一道ノ坂路及第二道中ノ坂路惡路並ニ第三道ハ廿分時ヨリ多カラサル時間ヲ以テ行車ス			

第九 急行速力ハ十八丁毎ニ平地ハ十分時第一道ノ坂路及第二道中ノ坂路悪路并ニ第三道ハ十五分時間ヨリ多カラサル時間ヲ以テ行車ス

第十 二人挽以上ハ急行トス一人挽ト雖モ特ニ乗客ノ依頼アル片ハ急行ス

第十一 夜中發車又ハ途中夜ニ入ル時或ハ雨雪ニテ泥濘ノ時ハ本表ニ二割ヲ増加ス

第十二 午后發車歸路夜ニ入ルト三里以上ニ及フ片ハ之レヲ往路ニ折算シ其夜行里丁ニ限リ本表ニ四割ヲ増加ス其往路夜行スルト壹里半以上ナル時亦同シク増加ス但歸リ車及本文ノ行車十里以上ニ係ルトキハ此限ニアラス

第十三 二人挽ハ本表賃錢ノ三倍トス三人挽以上ハ挽子一人ヲ増ス毎ニ二人挽賃錢ノ半額ヲ遞加ス但一人挽ニテ急行スル片ハ市街地ヲ除クノ外本表ニ五割以内ヲ増加ス

第十四 暴風雨又ハ積雪ノ時ハ本表ニ二倍トス

第十五 二人乗ト雖モ一人ヲ乗載スルトキハ一人ノ賃錢ニ同シ

第十六 十八丁未滿ハ仍ホ十八丁ニ同シ但市街地ノ行車十八丁ヲ出ワルトキハ其十九丁以上ノ里丁ニ限リ第一道ノ賃錢ニ係リテ計算ス

第十七 保護人アル七年未滿ノ者ハ賃錢ヲ要セス十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做ス但單ニ一人ヲ乗載スルトキハ仍ホ一人ノ賃錢ニ同シ

第十八 賃額ノ異ナル道路ヲ併行スルニ當リ十八丁ニ零數ヲ生シタルトキハ其丁數ノ長キニ依リテ計算ス

第十九 本表掲記スル道路ノ外他組合ニ於テ第二道賃錢ノ定メアルトキハ其通過スル場所ノ賃錢ニ由ル

第二十 第十二項ノ割増ヲナストキハ第十一項ノ夜増ヲナサス第十四項ノ割増ヲナストキハ第十一項ノ惡路増ヲナサス

第二十一 賃錢ヲ増加スルニハ先ツ本表ノ賃錢ヲ算定レ之レニ増賃即幾割ヲ乘スルモノトス  
行車時間及賃錢割増并ニ計算方法ノ詳細ハ取締所ノ捺印ヲ受ケ別ニ所持ス若シ見ノコトヲ求メラレタルトキハ直ニ之レヲ指示ス  
車体ニ付着スヘキ賃錢表ニ限リ第八項以下ハ便宜別紙ニ記載シ規則ト共ニ所持スルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ本欄ヲ設ケ其趣意ヲ明記スヘキモノトス

○訓令第百廿二號 二十一年十一月三十日

郡役所

登記印紙受排計算表ノ義ハ明治二十一年十二月大藏省訓令第四十六號表式ニ依リ毎年四月七日限リ郡長名印ヲ以テ收稅長ニ報告スヘシ

○訓令第百廿三號 二十一年十二月一日

郡役所 戸長役場

今般内務省訓令第二十號ヲ以テ内務報告例更定相成候ニ付戸籍表並棄兒表様式左之通更ニ相定候條第一ヨリ第八ニ至ル八表ハ戸長役場ニ於テ取調翌年一月二十日迄ニ郡役所ニ差出シ郡役所ハ一表(ニ郡ヲ兼スルモノハ每郡別トス)ニ改製シ同二月二十日迄ニ縣廳ニ差出シ第九表ハ郡役所ニ於テ調製シ翌年一月三十一日迄ニ縣廳ヘ差出スヘシ但從前本縣ノ令違等ニシテ本令ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス  
參照 二十二年訓令百四號

第一 戸口表 明治何年十二月三十一日現在 郡役所(町村役場)名

郡 町 村 名	本 籍		合 計	現 住 戸 數
	男	女		

再 掲 市 街	合 計
何 (市 街)	
何 々	

一 現住戸數ノ欄ニハ本籍ナル者ト本籍ナラサル者ト又戸主タル者ト戸主タラサル者トヲ問ハス渾テ其地ニ現住シテ一世帯ヲ爲ス竈數ヲ記入スヘシ但官舎社寺學校病院製造所等ノ構内ニ居住スルモ別ニ一竈ヲ爲ス者ハ亦一戸トシテ之ヲ記入スヘシ  
一 再掲市街ノ欄ニハ本籍人口一萬以上アル地及本籍人ヲ本トシ第五表ノ出ヲ除キ入ヲ加ヘテ現住人口一萬以上アル地ノ本籍人並ニ現住戸數ヲ掲クヘシ

第二 本籍生年別人口表 明治何年十二月三十一日現在 郡役所(町村役場)名

生 年	本 籍		計
	男	女	
明治廿一年生			
同二十年生			

同十九年生  
同十八年生  
同十七年生  
同十六年生  
同十五年生  
同十四年生  
同十三年生  
同十二年生  
同十一年生  
同十年生  
生年不詳

合計	
----	--

一本表ハ北海道廳府縣本籍人ノ生年ヲ調査スルモノニシテ其調査ノ年ヲ首トシ以上年次ヲ逐ヒ明治慶應元治文久万延安政嘉永弘化天保文政文化享和寛政天明安永ニ溯リ年號

何年生ト列記シ其生シタル年ニ從ヒ記入スヘシ例ハ明治廿一年生レノ下欄ニハ同年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ出生シタル者ヲ記入スルカ如シ  
但戸籍編製以前逃亡失踪ニシテ其生年詳ナラサル者アルトキハ生年不詳ノ項ニ記入スヘシ

第三 本籍人別表 明治何年十二月三十一日現在 郡役所(町村役場)名

合計	華族	士族	平民	族籍		戸主		家		族		乘		兒		合計	
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	計









結婚數	生 産		離婚數	年未配偶數
	死 亡			
公 生		私 生		合 計
合 計		合 計		
附 屬	類 別	男	女	合 計
生 産 届 洩 者	明治二十年生 同 十九年生 同 十八年生 同 十七年生 同 十六年以前生			
樂 兒	本 年 以 前 生			
死 亡 届 洩 者	前 年 以 前 生			
本 籍 不 詳 死 亡 産 者				

一本表ハ一ヶ年ノ總裁ヲ記入スルノ趣意ナリ

一 生産者ノ數ヲ擧グルルニハ例ヘハ明治二十一年ニ在テハ先ツ該年ノ登記目錄ニ就キ一月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ出産シタル數ヲ算出シ之ヲ第一數トシ次ニ明治二十二年ノ登記目錄ニ就キ二十一年十二月下旬ニ出産シテ其届出期限二十二年一月上旬ニ係リテ届出タル數ヲ算出シ之ヲ第二數トシ (此第二數ハ明治廿二年ノ出産表ニハ記入スヘカラス) 此第一數第二數ヲ合シテ記入スヘシ

一 死亡者ノ數ヲ擧グルルハ生産者ノ數ヲ擧グルル法ト同シ

一 出産届出以前ニ死亡シタル者ノ數ハ前項ノ方法ニ據リ生産死亡ノ兩項ニ各記入スルハ勿論トス

一 結婚離婚ノ數ハ本年中結婚離婚ヲ届出タル件數即組數ヲ記シ且ツ結婚ハ婦又ハ婿ヲ迎ヘタル方離婚ハ之ヲ出シタル方ニ於テ記入スヘシ

一 年未配偶ノ欄ニハ本年十二月三十一日調ノ戸數ニ既ニ登記シアル夫婦ノ組數ヲ記入スヘシ

